

自然と歴史が織りなす奥深き旅

只見線

ただみせん



を

10倍

沿線飲食店
観光スポット
約**100**店
紹介付!

楽しむ本!

沿線ガイドブック

只見線のおすすめ情報満載!
人気のグルメ情報にスイーツ&お酒!
柳津町名物「あわまんじゅう」や
只見線のお土産情報がぎゅっしり!!
さらに日帰り温泉特集も!
その他、只見線に関する情報盛り沢山!!



見どころ
いっぱい!!



四季が織りなす絶景の旅、只見線へようこそ。

1. 只見線の復興の物語

2011年7月、新潟・福島豪雨により、只見線は甚大な被害を受けました。橋梁が流され、路盤が崩壊し、二部区間では長期間にわたり運休を余儀なくされました。復旧には多くの困難が伴い、一時は廃線の可能性さえ囁かれました。しかし、沿線住民の強い想いがこの逆境を乗り越える力となりました。「只見線は私たちの誇りであり、なくてはならない」との声が町や県、さらには全国の鉄道ファンを動かしました。

2017年、福島県とJR東日本が復旧に向けた合意を結び、本格的な工事が開始されました。鉄橋の再建や線路の補修などの復旧工事には数年の歳月が必要となりました。その間も地域の皆さまは只見線の魅力を発信するイベントを開催し続けました。そして、2022年10月1日、ついに只見線は全線復旧を果たしました。その日、涙を流しながら列車を見送る人々の姿がありました。只見線は単なる交通手段ではなく、人々の暮らしと心をつなぐ、希望の象徴なのです。

2. 只見線の歴史

只見線は今年(2026年)からちょうど100年前となる1926年に、最初の区間である会津若松駅から会津坂下駅までが開通しました。会津若松と新潟県魚沼地方を結ぶこの路線は、もともと資源輸送のために計画されましたが、沿線住民の生活を支える重要な足として機能し、また観光客を魅了する絶景路線としての役割も果たしてまいりました。

只見線の最大の魅力は、その壮大な自然景観にあります。只見川に沿って走るルートは、川霧が立ち込める幻想的な風景を生み出し、四季折々の美しい表情を見せてくれます。特に冬の雪景色は、日本屈指の美しさを誇り、鉄橋を渡る列車の姿が水面に映る「リフレクション写真」は、国内外の鉄道ファンを魅了してやみません。

しかし、只見線はその長い歴史の中で幾度となく自然災害に見舞われてまいりました。1960年代の大雪、2004年の中越地震、そして2011年の豪雨災害。たび重なる試練を乗り越えながらも、只見線は復活を遂げ、そのたびに地域の皆さまとともに歩んできました。この鉄道は、まさに「生きた歴史」の証であると言えるでしょう。

3. 復興へ向けて…、そして語り継がれる。

① 山本健二さん：只見線の復旧プロジェクトを主導した技術者、復興の立役者。
只見町で生まれ育ち、長年鉄道に携わってきた山本氏は、2011年の豪雨災害後、只見線の復旧運動の先頭に立ちました。彼は町の有志とともに「只見線を守る会」を設立し、署名活動や講演会を開き、廃線の危機を回避するために奔走しました。「只見線がなくなれば、町が衰退してしまう」——その言葉は多くの人々の心を動かし、ついに復旧実現へとつながりました。

② 星賢孝さん：只見線の郷土写真家
写真で只見線沿線の絶景の魅力を伝え続けています。彼は地域の歴史に精通し、震災や水害を乗り越えた只見線のストーリーを写真で語り続けています。「この鉄道は単なる移動手段ではなく、地域の誇りそのものです」と語る彼の言葉には、多くの人々が耳を傾けます。

只見線は、単なるローカル線ではありません。そこには、人々の生活があり、歴史があり、復興の物語が刻まれています。この鉄道に乗ることは、ただの移動ではなく、一つの壮大なストーリーを体験することなのです。雪深い山里の風景、川面に映る鉄橋、そして復興を成し遂げた地域の皆さまの想い——そのすべてが只見線には息づいています。



▲星賢孝さん

春

Tadami-Line × Photograph = Anthology

只見線 × 鉄道写真 記念ギャラリー

P3-P10の写真はすべて
星賢孝(奥会津郷土写真家)撮影



夏



Tadami-Line × Photograph = Anthology

只見線 × 鉄道写真
記念ギャラリー

秋

Tadami-Line × Photograph = Anthology

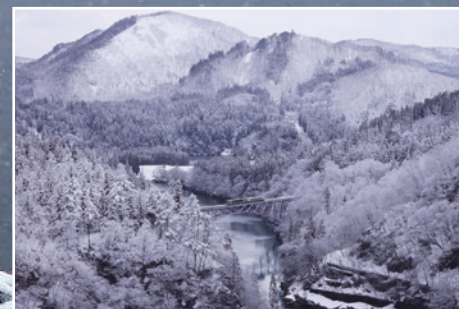
只見線 × 鉄道写真 記念ギャラリー



冬

Tadami-Line × Photograph = Anthology

只見線 × 鉄道写真 記念ギャラリー



Tadami-Line × Photograph = Anthology

只見線 × 鉄道写真 記念ギャラリー

撮影・星野正昭



ローカル鉄道の テーマパークだよ!

福島県

世界に1つだけの鉄道

**本物のローカル鉄道が
遊園地になりました**

只見線ガイドマップ

TADAMISEN GUIDE MAP

新潟県

栃木県

茨城県

群馬県

只見線を10倍楽しむ本!



— CONTENTS —



只見線へようこそ

- 四季が織りなす絶景の旅、只見線へようこそ。——P1
- 只見線ガイドマップ——P13
- 1分で早わかり 只見線ってどんなところ? ——P17
- 只見線 × 鉄道写真記念ギャラリー——P3
- 目次——P15
- 只見線オススメベスト4コース! ——P19

只見線のおすすめグルメ♪沿線で味わう郷土の美味!

- 会津山塩食堂(会津山塩ラーメンとミニソースかつ丼セット)——P21
- まるも食堂(ソースカツ丼)——P21
- 空山NEO 七日町店(空、山、雲)——P22
- すみれ亭(すみれ定食)——P22
- 喜楽屋神龍(ホルモン定食)——P23
- あづまや(醤油ラーメン)——P23
- 坂下ドライブイン(桜刺身定食)——P24
- 道の駅会津柳津(ソースカツバーガー)——P24
- 双葉食堂(やきそばラーメン・カレーラーメン)——P25
- 桐花亭(道の駅尾瀬街道みしま宿)(会津地鶏カレー)——P25
- Tsuruno IORI Café(地鶏カレー・パンとシチュー・ジェラート)——P26
- 食堂おふくろ(カツカレーラーメン)——P26
- ひょっとこ亭(赤カボチャラーメン)——P27
- 味付マントンケパブカフェ(マントンケパブ)——P27
- 和風レストランまほろば(カキフライ定食・煮穴子にぎり)——P28
- 浅草山荘(日替わりランチ定食)——P28
- 道の駅いりひろせ レストラン鏡ヶ池(ごぼうそばセット)——P29
- ウイング(エビフライ定食)——P29
- 小麦や(旨辛味噌ラーメン)——P30
- トラットリア ポポラレー(pizaマルゲリータ)——P30
- 富士屋(プチ小出セット)——P31
- カレー屋ロミ(ロミカレー)——P31
- そば処富永(天ざる)——P32
- コーヒーハウスてくたく(ツナクリームピラフ)——P32
- ラーメン金ちゃん(シュウマイ)——P21
- 渋川間屋(祭御膳)——P21
- 満田屋(みそ田楽コース)——P22
- 小林食堂(ホルモン定食・半ちゃんらーめん)——P22
- 食堂いしやま(冷やしラーメン)——P23
- 山方屋食堂(半カレーらーめん)——P23
- 農家レストラン蕎麦カフェ ファットリアこもと(ざる蕎麦)——P24
- すずや食堂(ソースカツ丼)——P24
- 中野屋食堂(地鶏親子丼)——P25
- お食事処つるや(つるの湯ラーメン)——P25
- こぶし館 道の駅 奥会津かねやま(アザキ大根高遠そばとソースカツ丼)——P26
- 玉梨とうふ茶屋(幻の青ばと寄せとうふ・おかろーナツ)——P26
- 只見町インフォメーションセンター(ふきみそおにぎり)——P27
- そば処しおさわ庵(山菜かき揚げ蕎麦)——P27
- レストランやまびこ(トマトラーメン)——P28
- 四季を味わう宿 民宿休み場(季節のランチ)——P28
- 地域の拠点・直売所 元気すもん(日替わり弁当)——P29
- はるまさ(チャーハンセット)——P29
- 小松屋(へぎそば)——P30
- 中華まーぼー(土鍋麻婆豆腐定食)——P30
- 富貴亭(イワナ定食)——P31
- トライアングル(オムライス)——P31
- ビストロ ア・ラ・ポクソティの生姜焼きソース——P32
- いな穂(おすすめランチ)——P32

只見線の甘い誘惑♡沿線スイーツ&パンの旅♪ P33・P34

柳津町名物「あわまんじゅう」 P35 旅の思い出に♪只見線お土産めぐり P36

日本酒・焼酎・ワイン特集

- 白井酒造店——P37
- 新鶴ワイナリー——P37
- 豊国酒造——P38
- 合同会社ねっか——P38
- 緑川酒造——P38
- 【店舗情報】新鶴ワイナリー——P38
- 【店舗情報】玉川酒造株式会社——P37
- 男山酒造店——P37
- 廣木酒造——P37
- 曙酒造——P38
- 玉川酒造——P38
- 【店舗情報】会津旨酒五ノ井酒店——P38
- 【店舗情報】只見町インフォメーションセンター——P37
- 【店舗情報】富士屋——P37

日帰り温泉特集

P39・P40

- 映画で見る只見線特集——P41
- 開通一〇〇年 只見線の建設と選奨土木遺産——P43
- 只見線アクセスガイド——P85

只見線から生まれた、地域の物語 「あいせき列車只見線」



第1弾

あいせき列車只見線
～小出で恋して 会津で愛して～

YouTubeは
こちらから



第2弾

あいせき列車只見線
～おばあちゃんの唄～

YouTubeは
こちらから



第3弾

あいせき列車只見線
～ほらふき信ちゃんの里帰り～

YouTubeは
こちらから



オススメコースを紹介! 他にもオススメコースが盛りたくさん!

只見線の全線乗り通しに挑戦!

表記はおよその時刻です。運転時刻が変わる可能性がありますので予め時刻表などでご確認ください

13:00—会津若松駅 出発

会津若松駅から出発。レトロな町並みで人気の七日町通りを散策し、七日町駅から乗車するのもおすすめ! 会津若松駅から七日町通りまで歩いて行くこともできます。



会津盆地から只見川へ

山々に囲まれた会津盆地ののどかな景色も只見線の見どころの一つ。会津坂本駅からは只見川に沿った車窓風景になり、ところどころで只見川の鉄橋を渡る雄大な景色が広がります。



15:00—会津川口駅

只見川に面した会津川口駅で30分ほど停車。外に出て周囲の風景を眺めてみよう! 駅の中には売店もあるので土産も買えます。



只見線の復旧区間へ

2011年に発生した新潟・福島豪雨で大きな被害を受けた只見線。豪雨災害後は長らく代行バスが運行されていたが、只見線が全線復旧した2022年からは新しく架け直した鉄橋を列車で通ります!



16:20—只見駅

只見駅で10分ほど停車。列車の外に出て夕暮れの只見駅を見よう。夏だったらまだまだ明るく、この先も車窓風景を楽しめます!



17:50—小出駅 到着

長かった只見線乗り通しの旅もここまで。小出駅からは上越線で浦佐駅に行くとか新幹線に乗れます。旅館に泊まって温泉や魚沼産コシヒカリを味わうのもおすすめ!



このルートは、只見線の美しい車窓風景や季節の移り変わりを存分に楽しめるコースです。

1分で早わかり 只見線ってどんなところ?

自然と歴史がつながるテーマパーク

只見線に乗ってみよう!

山あい縫うように静かに走る列車。季節ごとに表情を変える渓谷、昔語りを今に伝える史跡、そして素朴で温かい人々との出会い。只見線は、ただの交通手段ではありません。それは、乗ることそのものが旅になる、「自然と歴史のテーマパーク」。列車にゆられながら、時間も心もゆっくりとほどこけていく——。あなたの知らなかった日本が、この線路の先に待っています。さあ、只見線へ行こう!



只見 → 小出区間 (福島県～新潟県)

会津若松 → 只見区間 (福島県)

只見線
全駅一覧図
(会津若松駅～小出駅)

世界に1つだけの鉄道
本物のローカル鉄道が
遊園地になりました
只見線ガイドマップ
TADAMISEN GUIDE MAP

只見駅
観光スポット: 只見町インフォメーションセンター (駅前にある観光案内所、お土産やレンタサイクルの貸し出し)
三石神社 (大きな岩をご神体とする緑結びの神社)
田子倉展望台 (田子倉ダムの上から広大な田子倉湖を見渡せる)

会津柳津駅
観光スポット: 福満虚空蔵菩薩圓蔵寺 (大きな岩の上に建つ虚空蔵堂。只見川の対岸から見ると大迫力)
あわまんじゅう (柳津の名物。会津柳津駅から福満虚空蔵菩薩圓蔵寺へ行く道沿いに数軒のお店がある)

会津若松駅
観光スポット: 鶴ヶ城、飯盛山 (美しい天守閣、白虎隊の悲劇、さざえ堂など見どころ多数)
七日町通り (レトロな町並みが残るエリアで、カフェやお土産店が充実)

会津宮下駅
観光スポット: 第一只見川橋りょうビューポイント (第一只見川橋梁を通る列車を撮影できる。道の駅尾瀬街道みしま宿から徒歩で約5分)
駅からサイクリング (駅近くの「観光交流館からんころん」で電動自転車をレンタルでき、ビューポイントへ行ける)

会津高田駅
観光スポット: 伊佐須美神社 (会津の総鎮守で強運、事業育成、五穀豊穡、厄除開運など。外苑のあやめ苑も有名)
宮川千本桜 (春には宮川河川敷のソメイヨシノが咲き、会津有数の桜の名所)

小出駅
観光スポット: 魚沼産コシヒカリ (全国的に有名なブランド米。旅館や飲食店で食べてみよう)
湯之谷温泉郷 (旅の締めくくりにゆったりとした癒しの時間)
おすすめディナー: 魚沼産コシヒカリや地酒、へぎそばなど

このルートでは、只見線の魅力を存分に味わいながら、歴史、自然、グルメを堪能できる一日観光を楽しめます。





只見線オススメ ベスト4コース!



オススメ④

お手軽半日プラン

小出からショートトリップ

田子倉湖と焼酎を楽しむ旅

所要時間 約5時間
おすすめ季節 春(新緑)、秋(紅葉)

1 小出駅

- 小出駅から出発。小出駅の駅名銘板は魚沼市出身の俳優である渡辺謙さんが揮毫したもの。
- 所要時間:約70分(只見線乗車)
- 到着時間:小出駅発13:12→只見駅着14:25

2 田子倉展望台

- 雄大な田子倉湖を展望台から見学。新緑や紅葉の時期はとても素晴らしい景色が広がる。
- 只見駅から観光周遊バス「自然首都・只見号」で田子倉展望台へ。
- 到着時間:只見駅発14:35→田子倉展望台着15:00

3 ねっか只見駅前醸造所

- ねっか只見駅前醸造所では、米焼酎「ねっか」や「どぶろく」を販売。只見線の切符提示で「どぶろく」が割引に。(営業時間16時まで)
- 田子倉展望台から観光周遊バス「自然首都・只見号」で只見駅へ。
- 到着時間:田子倉展望台発15:30→只見駅着15:55

4 只見町インフォメーションセンター

- 南郷トマトなど只見町の特産品を販売。只見線のグッズもたくさんあるので、要チェック。
- 所要時間:約20分(休憩、お土産購入)
- 帰りの列車:只見駅発16:31→小出駅着17:47

オススメ③

温泉と自然満喫プラン

リラックス&絶景探訪

玉梨温泉と昭和村を巡る2日間

所要時間 2日間
おすすめ季節 春(新緑)、夏(沼沢湖水まつり)、秋(紅葉)、冬(雪景色)

1 奥会津ビューポイントかねやまふれあい広場

- 会津川口駅から徒歩約10分にある絶景スポット。川沿いの大志集落と只見線の列車の写りが撮れます。
- 到着時間:会津若松駅発13:05→会津川口駅着14:58
- ビューポイントの上り列車通過:15:36頃

2 玉梨温泉

- タクシー等で玉梨温泉へ。日帰り温泉「せせらぎ荘」には天然炭酸温泉があります。橋の近くには小さな共同浴場もあり。
- 移動手段:タクシー等
- 温泉旅館に宿泊(温泉、夕食)

3 交流・観光拠点「喰丸小」

- 昭和村の「喰丸小」は閉校した小学校の木造校舎を利用した施設。
- 所要時間:約60分(喰丸小、大銀杏見学)
- 喰丸小の蕎麦カフェや、道の駅「からむし織の里しょうわ」で食事もある。

4 沼沢湖

- 山々に囲まれたすがすがしい沼沢湖。福島県内で唯一ヒメマスが生息する湖で、湖の近くには妖精美術館も。
- 所要時間:約70分(沼沢湖、妖精美術館)
- 帰りの列車:会津川口駅発15:35→会津若松駅着17:24

オススメ②

絶景と秋境探訪プラン

自然探訪

絶景と秘境を巡る只見線の旅

所要時間 約10時間
おすすめ季節 春(新緑)、夏(川霧)、秋(紅葉)

1 霧幻峡の渡し

- 早戸駅から出る幻想的な渡し舟「霧幻峡の渡し」。川霧の中に浮かぶ渡し舟は夢か幻か。
- 所要時間:約90分(霧幻峡の渡し)
- 到着時間:会津若松駅発7:41→早戸駅着9:24

2 早戸温泉つるの湯

- 霧幻峡の渡しを満喫した後は川を眺めながら温泉でゆっくり。お食事処もあり。
- 所要時間:約70分(温泉、食事)
- 次への出発時間:早戸駅発12:48→会津宮下駅着12:57

3 第一只見川橋りょうビューポイント

- 駅前の観光交流館から電動アシスト付きレンタサイクルで道の駅尾瀬街道みしま宿へ。そこから徒歩約5分でビューポイントに到着。
- 所要時間:レンタサイクル約15分、徒歩約5分
- 第一只見川橋梁の下り列車通過:14:23頃

4 道の駅尾瀬街道みしま宿

- 三島町の特産品や野菜などを販売しており、お土産も充実。お食事処「桐花亭」では会津地鶏の親子丼を提供。
- 所要時間:約30分(お土産購入)
- 帰りの列車:会津宮下駅発16:03→会津若松駅着17:24

オススメ①

町並み散策と虚空蔵堂の旅

福満虚空蔵菩薩圓蔵寺の絶景

会津の町並みと古刹を巡る旅

所要時間 約6時間
おすすめ季節 通年(特に秋の紅葉シーズンがおすすめ)

1 七日町通り(七日町駅付近)

- 「会津一の繁華街」として賑わった七日町通りを散策。七日町駅のカフェで一休み。
- 所要時間:90分(七日町通り散策)
- 出発時間:七日町駅発13:11→会津柳津駅着14:05

2 会津柳津駅

- 2024年に「あいべこ」としてリニューアルし、駅舎の中に赤べこ工房やカフェがある。観光パンフレットをもらおう。
- 所要時間:15分(会津柳津駅見学)
- 次への出発時間:14:20(徒歩で移動)

3 福満虚空蔵菩薩圓蔵寺

- 会津を代表する古刹の一つ。只見川に面した虚空蔵堂からの眺めは圧巻。紅葉の名所としても有名。
- 所要時間:60分(福満虚空蔵菩薩圓蔵寺拝観)
- 次への出発時間:15:30(徒歩で移動)

4 あわまんじゅう

- 柳津の名物「あわまんじゅう」のお店は福満虚空蔵菩薩圓蔵寺の近くにある。お店で食べても、持ち帰りでもどうぞ。
- 所要時間:20分(あわまんじゅう購入)
- 次への出発時間:16:00
- 帰りの列車:会津柳津駅発16:27→会津若松駅着17:24

只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



会津美里町 すみれ亭

おすすめ すみれ定食

本郷の町中にあるお食事処すみれ亭は、選べるメインと日替わり小鉢の「すみれ定食」が好評。「すみれ定食」の選べるメインは、和風ソースの手ごねハンバーグや、自家製みそを使った鮭の西京焼き、ジューシーな鶏のから揚げ、脂ののって香ばしいサバの塩焼きなどで、単品注文もできる。料理には本郷焼の器、食材は地元の野菜を使い、汁物と小鉢は季節ごとに変えている。手軽に満足感が得られるおいしいお店。会津名物ソースカツやデザートなども充実。



住 〒969-6116 会津美里町字瀬戸町3266
営 11:00~14:00 夜の部要予約 定 毎週水曜、第一、第三日曜



会津若松市 空山NEO 七日町店

おすすめ 空、山、雲

「毎日食べられるラーメン、懐かしさの中に新しさのあるラーメン」をコンセプトにしたお店。人気の醤油スタイルをはじめ、三種の味噌をブレンドした味噌スタイル、岩塩と日高昆布とショウガの出汁を使った塩スタイルなどがある。他にも淡麗魚介ラーメンや数種類のスパイスをブレンドした辛ラーメンなど多彩なラーメンを提供。調理にひと手間かけた「こだわりのチャーシュー」を目当てにする人も多い。リピーターも多く、常連の中には一日に二回来る人も。



住 〒965-0044 会津若松市七日町9-7
営 10:00~21:00 定 元日



会津若松市 まるも食堂

おすすめ ソースカツ丼

昔ながらの大众食堂といった雰囲気のお店。おすすめのソースカツ丼は、厚みがあり、衣がパリパリのカツが自慢。濃いめのソースがかかっていて、キャベツの量は少なめ。ソースの濃さに合わせて、味噌汁の味は薄めで具は少なめにしている。他にもラーメン、そば、うどん、定食など定番メニューがたくさん。



住 〒965-0024 福島県会津若松市白虎町229
営 11:45~15:30/17:00~19:00 定 不定休



会津若松市 会津山塩食堂

おすすめ 会津山塩ラーメンとミニソースかつ丼セット

ただの塩ラーメンとは言わせません!キラキラと透き通るスープの正体は、温泉水を焚きあげて作る「会津山塩」にあります!おすすめは会津山塩ラーメンとミニソースかつ丼セット。あっさりとしたスープは、甘いソースがじゅわっと浸み込んだ肉厚なソースカツと相性抜群!ジューシーからのあつりからのジューシーと交互で食べるのがとにかく美味しい!食欲の無限ループです!会津若松駅構内にあるため、駅到着後や出発前にお腹を満たすのに最適です!



住 〒965-0041 福島県会津若松市駅前町1-1 JR会津若松駅1F
営 11:00~18:00 定 水曜日



会津美里町 小林食堂

おすすめ ホルモン定食 半ちゃんらーめん

会津高田駅の近くにあるお店。ラーメンはあっさりとした醤油味のスープに太めの麺。チャーハンのご飯がパラパラで具も多い。



住 〒969-6268 福島県大沼郡会津美里町柳台甲2329
営 11:30~14:00 定 第4水曜日



会津若松市 満田屋

おすすめ みそ田楽コース

伝統の味を守り続ける会津味噌の専門店。味噌蔵を改装した店内では郷土料理の「みそ田楽」が楽しめる。定番の「みそ田楽コース」は、赤みそに砂糖と薬味を練りこんで味付けした秘伝の「みそだれ」を、お餅、里芋、身欠きにし、ご飯をつぶした「しんごろう」などにぬり、囲炉裏でじっくりと焼き上げる。囲炉裏からは煙が上がり、落ち着いた雰囲気のお店で郷土料理を味わえる。お米をはじめ素材は会津産のものを使用。季節により味噌の調合を変えたりしている。



住 〒965-0042 会津若松市大町1-1-25
営 10:30~16:30 (ラストオーダー16:20) 定 毎週水曜日



会津若松市 渋川問屋

おすすめ 祭御膳

明治15年から受け継がれる海産物問屋渋川家の伝統的な味をいただけます。海産物問屋郷土料理「祭御膳」は、ニシンを使用した料理や貝柱のお出汁のごぼうが特に絶品。他にも、会津牛の切れ端で作る「幻の牛丼」、数量限定の「会津牛ステーキ御膳」がおすすめ。関東から渋川家に嫁がれた女将さんはとても気さくな方で、二足の草鞋でお隣に「ピラティスサロンクララ」を運営されているそうです。



住 〒965-0044 福島県会津若松市七日町3-28 ☎ 0242-28-4000
営 11:00~15:00/17:00~21:00 定 不定休



会津若松市 ラーメン金ちゃん

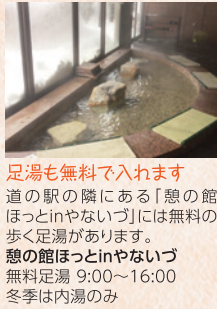
おすすめ シュウマイ

駅前にあるラーメン屋。ラーメンはあっさりとしたスープで具も多い。麺は太め。餃子はパリパリした食感。餃子・シュウマイのテイクアウトもできる。シュウマイをテイクアウトして只見線の車内で食べるのがおすすめ。



住 〒965-0041 福島県会津若松市駅前町5-25
営 11:00~19:00/金曜日のみ11:00~15:00 定 不定休

只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



足湯も無料で入れます
道の駅の隣にある「憩の館
ほっとinやないづ」には無料の
歩く足湯があります。
憩の館ほっとinやないづ
無料足湯 9:00～16:00
冬季は内湯のみ

柳津町 道の駅会津柳津

おすすめ ソースカツバーガー

ソースカツバーガーは厚みがあり食べ
応えがあるカツが挟まれボリューム満
点。道の駅の内部では蕎麦打ちをして
いるところを見ることもできる。併設さ
れている越後三山只見国定公園奥会
津ビジターセンターには、只見線旧第
六只見川橋梁のジオラマがあり、紅葉
の風景とキハ40の模型が見られる。



住 〒969-7201 福島県河沼郡柳津町柳津下平乙181-1
☎ 0241-42-2324 営 9:00～17:00 定 不定休



柳津町 すずや食堂

おすすめ ソースかつ丼

柳津の町中にある昔ながらの食堂。すず
や食堂のおすすめは何といっても「ソー
スカつ丼」。揚げたてのカツを薄焼き玉
子の上に乗せ、自家製のソースをかけた
ソースカツ丼は素朴な味わいで何度で
も食べたくなる。味噌ラーメンや焼きそ
ば、カレーライス、チャーハン、うどん、親
子丼など多くのメニューもあり。



住 〒969-7201 柳津町柳津字寺家町甲145
営 11:00～14:00 定 7のつく日



会津坂下町 坂下ドライブイン

おすすめ 桜刺身定食

国道沿いにある立派な建物のドライブイン
で、旅館と肉屋も併設している。食堂は座敷
で外を見ながら食事ができる。名物の馬肉
の刺身である「桜刺身定食」がおすすめ。馬
肉の刺身は癖がなく、辛子みそをつけて食
べると馬肉の味が引き立つ。柔らかい馬肉
の煮込みは甘じょっぱく食べやすい。馬肉を
持ち帰りできる売店もある。



馬肉の煮込み

住 〒969-6549 福島県河沼郡会津坂下町古川町川尻446
営 11:00～14:30 / 17:00～20:00 定 不定休



会津坂下町 農家レストラン 蕎麦カフェ ファットリアこもと

おすすめ ざる蕎麦

地元素材の料理を食べてもらいたいという思いからオープンした農家レ
ストラン。地場生産の野菜やお米、蕎麦や小麦を使って、ざる蕎麦、パスタ、
ピッツァなどを提供している。透き通るような手打ち蕎麦は、蕎麦の中心部
分からとれる粉だけを使って打っている。つなぎを使わない十割蕎麦で、
コシがある。つゆは鰹節と煮干し昆布で出汁を取り、三
種類の醤油を使った伝統のたれで作っている。トマト
ソースのパスタや牡蠣のペペロンチーノ、ドイツやイ
タリアのビール、ワインなども豊富に取り揃えている。



住 〒969-6586 会津坂下町大字坂本字郷塚乙1144 定 月曜、第二四火曜
営 11:00～15:00(ラストオーダー14:30) / 17:00～20:00(ラストオーダー19:30)



会津坂下町 あづまや

おすすめ 醤油ラーメン

2023年10月に開業したあづまのキャッ
チフリーズは「晴を生おうまざ」。スープは
濃厚、若干細めの麺は、固さは少し柔らかめ
で食べやすい。ランチメニューにはコーヒ
ーゼリーとコーヒーがついてくる。コーヒ
ーゼリーは甘さ控えめでクリームの味が強調さ
れている。とんかつや刺身の定食、海鮮丼も
注文する人が多い。



住 〒969-6547 福島県会津坂下町市中三番甲3674番地
営 11:00～14:00 / 17:00～22:00 定 日曜日



会津坂下町 山方屋食堂

おすすめ 半カレーらーめん

会津坂下駅のすぐ近くにある昔ながらの
食堂。半カレーとラーメンがおすすめ。
ラーメンはあっさりしたスープに麺は太
め。トッピングのチャーシューは薄くて食
べやすい。カレーは辛すぎずこちらも食
べやすい。ネギラーメンも注文する人が多く、
ソースカツ丼やチャーハン、うどんなど定
番メニューもしっかり押さえている。



住 〒969-6545 福島県河沼郡会津坂下町五反田五反田1275
営 11:00～14:00 定 不定休



会津美里町 喜楽屋神龍

おすすめ ホルモン定食

昭和初期からあるという駅前食堂。名物のホルモン定食はニンニク
のきいた甘いみそだれで味付け。臭みのないホルモンは柔らかく、
味わい深い噛み応え。他にもチャーシューがたくさん入ったチャー
ハン、コクのあるスープにモチモチ麺の四川担々麺、一口では食
べられないほど大きな唐揚げ定食などもおすすめ。
エビチリや青椒肉絲などの一品料理、タコライス、
パスタなどもあり、会津カレー焼きそばや限定20
食のスリランカ産激辛カレーも人気。



住 〒969-6268 福島県大沼郡会津美里町柳台甲2331
営 11:30～14:00 / 17:00～20:30 定 火曜日



会津坂下町 食堂いしやま

おすすめ 冷やしラーメン

冷やしラーメン発祥のお店。冷やしラーメンには氷が入っており、あつ
ざりしたスープに麺、玉ねぎ、チャーシュー、メンマのみのシンプルな
構成。特注の麺は弱火で柔らかく茹でることで冷やしてもおいしく食
べられるようにしている。スープは時間をかけて徹
底的に処理した豚肉でだしを取り、豚肉のうまみを
凝縮させている。冷やしラーメンを食べっていると氷
が解けてスープが薄まりがちだが、塩の調合を工夫
して水っぽさを感じさせないようにしている。



住 〒969-6543 福島県河沼郡会津坂下町市中二番甲3617
営 11:00～19:00 定 不定休

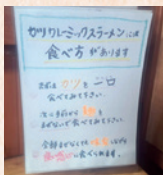
只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



金山町 食堂おふくろ

おすすめ カツカレーラーメン

あっさりしたラーメンのスープにカレーは辛め、カツはスープにひたしてもサクサク。カツを食べってから麺を混ぜないで食べると食べ方のポイント。混ぜないで食べると味変しながら食べられる。ご飯入りのカツカレーラーメンミックスもおすすめ。



住 〒968-0011 福島県大沼郡金山町川口下町601
営 10:00～15:00 (スープがなくなりしだい終了)
定 第2第4木曜日



巨島町 Tsuruno IORI Café

おすすめ 地鶏カレーパンとシチュージェラート

只見線早戸駅から徒歩10分。2015年に住宅展示場を改装した、木造の落ち着いた雰囲気のカフェ。料理はすべて福島県産のものを使用。会津地鶏カレーとパンとシチューがおすすめ。



住 〒969-7406 福島県大沼郡三島町早戸湯ノ平888
営 11:00～16:00 定 不定休



巨島町 桐花亭 (道の駅 尾瀬街道みしま宿)

おすすめ 会津地鶏カレー

程よいスパイスさと、野菜の甘みが溶け込んだルーに、食欲がそそれます!さらに付属でついてくる福神漬の甘みやさっぱりとしただいの漬物の相性が抜群で、1口ごとに違った味わいが楽しめます!主役の地鶏は柔らかさと共に弾力があり、噛むほどに旨みが広がります!



カメラを向けると、周りの方々に微笑みかけられ、温かい雰囲気で迎えてくれます。

住 福島県大沼郡三島町川井天屋原610
営 10:00～16:00 定 不定休



巨島町 双葉食堂

おすすめ やきそばラーメン カレーラーメン

会津宮下駅前の食堂。料理の量は全体的に多く、素朴な味と昔ながらの内装は懐かしさを感じさせる。焼きそばラーメンはボリュームがありおすすめ。料理には小鉢がついてくるのもうれしい。



住 〒969-7511 福島県大沼郡三島町宮下宮下209
営 11:30～14:00 定 日曜日



金山町 玉梨とうふ茶屋

おすすめ 幻の青ばと寄せとうふおからドーナツ

有機肥料をふんだんに取り入れ、長い年月をかけて土づくりをした畑で栽培する青ばと豆(枝豆)を原料に、奥会津の雪とブナ林が生み出す究極の湧き水を使って作る「幻の青ばととうふ」。一口食べれば、濃厚な青ばと豆の味わいと奥会津の豊かな自然が感じられる。青ばととうふを一丁揚げした「ジャンボ生あげ」、青ばととうふをペースト状にして青ばと豆を入れたアイスクリーム、豆乳とおからを使ったドーナツも絶品。

住 〒968-0014 福島県大沼郡金山町玉梨363
営 9:00～16:00 定 不定休



金山町 こぶし館 (道の駅 奥会津かねやま)

おすすめ アザギ大根高遠そばとソーツカツ丼

食堂と特産品コーナーが複合した施設、こぶし館。食堂のおすすめは金山名物アザギ大根を使用したアザギ大根高遠そばとソーツカツ丼。ピリッと辛いアザギ大根はそばとの相性抜群!薬味として大活躍です。ソースカツ丼はカラッと揚げた甘辛いソースが浸み込んでいて、ソースがご飯とキャベツにも染みわたっています。



住 〒968-0006 福島県大沼郡金山町大字中川字上居平949-8
営 11:00～15:00 定 不定休



巨島町 お食事処つるや

おすすめ つるの湯ラーメン

看板メニュー「つるの湯ラーメン」。つるの湯温泉を煮詰めて取った塩を使用。スープはあっさり素材は葱だけ。シンプルで飽きの来ない味わいです。併設されている鶴の湯は成分がとても良いのでお腹が空きやすいそう、入浴前ここで腹ごしらえをする方も多いそうです。※スープの塩分濃度の都合で、大盛り不可、半玉量にて販売



住 〒969-7406 福島県大沼郡三島町大字早戸湯ノ平888 早戸温泉つるの湯 ☎ 0241-52-3324
営 11:00～14:00/16:00～18:30 (18:00最終オーダー) 定 水曜日、木曜日



巨島町 中野屋食堂

おすすめ 地鶏親子丼

現在は兄妹で切り盛りされていますが、この親子丼はお母さんの代から提供されるようになったそう。なんと、玉ねぎの代わりに舞茸が!これぞ中野家のおふくろの味。初めて食べるのに筆者もどことなく懐かしさを感じました。アンティークな家具や小物がたくさん飾られた内装にも注目です。インテリアのお仕事をされていたお兄さんの世界観が楽しめます!



住 〒969-7511 福島県大沼郡三島町宮下宮下375
☎ 0241-52-3015 営 11:00～20:00 定 不定休

只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



魚沼市 浅草山荘

おすすめ 日替わりランチ定食

大白川にある宿泊施設の浅草山荘ではランチ営業や日帰り温泉も利用できます。日替わりランチ定食はコーヒー付き。豚角煮定食は箸が要らない程柔らかく、しっかり味が染みるまでゆっくり火入しています。他にもラーメンやそば、鮎の塩焼き定食などあり、屋外でのバーベキューも楽しめます。



住 〒946-0303 新潟県魚沼市大白川887-127 定 不定休
営 (ランチ) 11:00～15:00 (ラストオーダー14:30)



煮穴子にぎりとざる蕎麦がおすすめのお店です。

只見町 和風レストランまほろば

おすすめ カキフライ定食 煮穴子にぎり

山奥では珍しい煮穴子を提供しているお店。やわらかい煮穴子と甘めのタレが良い、シャリが大きく3貫でも十分な量がある。カキフライは中身がしっかりである。



住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町只見宮前1303-7
営 11:30～14:00 / 17:30～21:00 定 火曜日



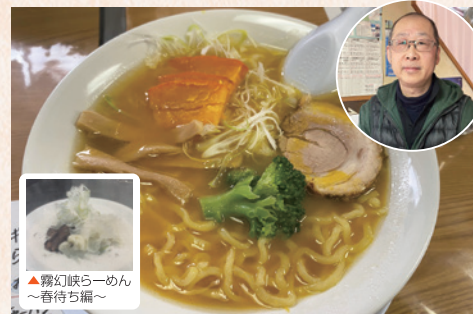
只見町 味付マトンケバブカフェ

おすすめ マトンケバブ

看板メニュー「マトンケバブ」マトンらしい風味は感じられますが、味付けが濃いめなのでそこまでクセが強くなく食べやすい!スパイス感もマイルドで多くの方に好まれる味です。店内は落ち着いたカフェ空間でチキンカレーやマトン丼などのメニューも食べられます。



住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字雨堤1018-1
営 9:00～16:00 定 不定休



金山町 ひょっとこ亭

おすすめ 赤カボチャラーメン

会津名物の赤カボチャを使用しています。スープは赤カボチャの甘みが強めですがあっさりしたベースなので飽きが来ない味わい。全てのラーメンにプロコリーが乗っているのも珍しいポイント!霧幻峡の船頭さんを表しているそうです。



住 〒968-0006 福島県大沼郡金山町大字横田字居平640-1
営 11:30～14:00 / 17:30～20:00
定 火曜日



魚沼市 四季を味わう宿 民宿休み場

おすすめ 季節のランチ

東京のホテルや洋菓子店でパティシエ、イタリアンレストランでシェフをしていた夫婦が営む民宿で、ランチのみの利用もできる。「季節のランチ」は、地元で採れた山菜や川魚、きのこ、木の実、自家栽培の魚沼産コシヒカリなど、その季節に採れる食材をふんだんに使い、月によってイタリアンコースランチ、「山菜づくしランチ」、「きのこづくしランチ」、「新そばランチ」を提供。宿泊してゆっくり味わうのもおすすめです。



住 〒946-0303 新潟県魚沼市大白川 167
営 11:30～15:00 (前日までに要予約) 定 火曜、12月下旬～2月休業



只見町 レストランやまびこ

おすすめ トマトラーメン 期間限定 12月～2月

只見スキー場にある山小屋のような雰囲気のレストランはスキー場がオープンしている間だけでなく、通年で営業している。名物のトマトラーメンは只見産のトマトを100パーセント使用。トマトスープと麺とのバランスが良くとても食べやすい。パターとニンニクで味変をすると濃厚な味わいとなり、より一層食欲がわく。マトン丼やソースカツ丼、カツカレーもおすすめです。



住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町只見後山24
営 11:00～14:00 定 不定休



只見町 そば処しおさわ庵

おすすめ 山菜かき揚げ蕎麦

ぎっしりと敷き詰められた山菜の上に、大きなかき揚げが乗っていてボリューム満点。店横で立ち食いしている、「やっぱこの蕎麦だよな」と雪まつりを楽しむお客さんが次々にやってきました。常連さんたちは「毎年このそばを食べねえと雪まつりは終われねえ」との事。これぞまさに蕎麦!雪景色の中、外で食べるお蕎麦は格別です。思わず汁まで飲み干した筆者に店主は「この蕎麦をたべたら他の蕎麦は食べられねえよ」と自慢の笑み。1年中食べたいところですが、雪まつりと4月下旬～11月の土日限定営業なのもごめんなさいです。



住 〒968-0411 福島県南会津郡只見町塩沢上田1325
☎ 0241-82-2458 営 雪まつり期間、4月下旬～11月の土日



只見町 只見町インフォメーションセンター

おすすめ ふきみそおにぎり

只見駅の駅にあるインフォメーションセンター。新しいきれいな店内でお土産などを販売している。只見町の野菜や食品をはじめ、ユーチューバーの「スーツ」公認グッズ、台湾映画「青春18×2君へと続く道」のグッズなどがある。店内にはトイレと休憩所もありゆっくり時間を過ごせる。ふきみそおにぎりは近くの旅館で作っており、大きなおにぎりに香りが良い自家製のふきみそが入っていて食べ応えがある。



住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町只見雨堤1018-1
営 9:00～17:00 定 不定休

只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



魚沼市 トラットリア ポポラーレ

おすすめ pizaマルゲリータ

薪窯で焼くpizaマルゲリータが人気。たっぷりのチーズと高温で焼くナラ材の香りが絶品で、季節ごとの限定ピザも人気がある。生ハムやキノコ、野菜、イペリコ豚、シーフード、ソーセージなど様々な具材を使ったピザをはじめ、肉料理や魚料理、パスタなど豊富なメニューと料理に合うワインを取り揃えている。前菜からソース、ドレッシング、デザートまですべて手作りで、只見町などから来るお客も多い。



住 〒946-0061 新潟県魚沼市新保138-3
営 11:30～14:00/17:00～20:30 定 月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)



魚沼市 小麦や

おすすめ 旨辛味噌ラーメン

自家製チャーシューやバラエティに富んだこだわりのラーメンが自慢のお店。旨辛味噌ラーメンは、三種の味噌をブレンドした味噌だれに唐辛子と自家製ラー油を加えることで刺激ある辛さと味噌のうまみを存分に味わえる。柚子の風味をつけた塩ラーメンやショウガが香る醤油ラーメンなどの定番メニューも人気があり、期間限定のメニューも楽しみにしている人が多い。



住 〒946-0107 新潟県魚沼市下田15-1
営 10:30～14:00/17:00～19:30 定 火曜日



魚沼市 ウイング

おすすめ エビフライ定食

越後須原駅の近くにある洋食店。大ぶりのエビが三尾の「エビフライ定食」がおすすめ。エビフライの衣はさっくり、身はプリプリではボリュームたっぷり。お米はすべて自家製の魚沼産コシヒカリ。定食メニューをはじめ、ピラフ、カレー、パスタ、ピザ、グラタンなどどれも絶品。トーストやサンドイッチなどの軽食、アイスクリームやパフェも充実。店内には暖かい薪ストーブがあり、居心地の良いお店。



住 〒946-0216 新潟県魚沼市須原918-5 定 木曜、4月～11月は平日の昼営業なし
営 11:30～13:30/17:00～21:00(平日)、17:00～22:00(土日祝)



魚沼市 道の駅 いりひろせ レストラン 鏡ヶ池

おすすめ ごっぼうそばセット

道の駅いりひろせには魚沼産コシヒカリをはじめ、手焼せんべい、米粉で作ったかわいらしいお団子の「笹雪だるま」、団子などお土産品がたくさん。湖上レストラン鏡ヶ池では、つなぎに「ごっぼう」(オオヤマボクチという山菜)を練りこんだ手打ちそば「ごっぼうそばセット」が人気。山菜の風味があり、のど越しのいい「ごっぼうそば」はリピーターも多い。春は山菜、秋はキノコと季節ごとに美味しいものが楽しめる。



住 〒946-0305 新潟県魚沼市大板山356-2 定 木曜(12月～2月)
営 10:00～16:00(レストラン 鏡ヶ池4月中旬～11月下旬の営業、冬期間は道の駅内で食事が可能だが、提供メニューは異なる)



魚沼市 中華まーぼー

おすすめ 土鍋麻婆豆腐定食

一番人気の麻婆豆腐定食は、小出の老舗「立場とうふ」の手作り豆腐と国産豚ひき肉を使い、豆腐の味をしっかりと味わえる一品。さらに三年熟成のピーシェン豆板醤と中国黒豆で奥深いコクを出している。ご飯は魚沼産コシヒカリを使用し、ラーメンは弥彦の小麦を使用。夏場は冷やし担々麺も加わる。ランチメニューでは丼物や定食、ラーメンなどがあり、夜は一品料理やお酒なども提供している。



住 〒946-0007 新潟県魚沼市四日町89-10 定 不定休
営 11:00～15:00/17:00～22:00(ラストオーダー14:00、21:00)



魚沼市 小松屋

おすすめ へぎそば

越前駅の近くにある美味しいおそば屋さん。北海道産の玄そばを石臼で自家製粉した挽きぐるみのそばが特徴。創業以来変わらないコシのある太い麺は風味豊かで食べ応えがある。「へぎ」と呼ばれる木の器に、そばを一口大に丸めて盛りつけた「へぎそば」は特に人気が高い。そばとうどんの合い盛りや天ざる、天丼などもあり、お土産用のそばも販売している。



住 〒946-0051 新潟県魚沼市今泉1545-1
営 11:00～13:55/17:00～18:25 定 火曜日、水曜日



魚沼市 はるまさ

おすすめ チャーハンセット

長年、地元の人たちに愛されている食堂。ラーメンやワンタンメン、焼肉定食や焼き魚定食などの定食に加え、夜はおでん、湯豆腐、レバー炒めなどのおつまみ・一品料理も提供している。チャーハンセットはチャーハンと半ラーメンに餃子がついたセットで、チャーハンには香ばしいチャーシューが入る。ラーメンは昔ながらの醤油ラーメンがたくさん。ラーメンは昔ながらの醤油ラーメンで、お酒好きの人はビールを合わせるのがおすすめ。



住 〒946-0216 新潟県魚沼市須原934-2
営 11:00～13:00/17:00～20:00 定 火曜日



魚沼市 地域の拠点・直売所 元気すもん

おすすめ 日替わり弁当

守門地区を元気にしようという地元の人たちがボランティアで運営している直売所。野菜やお米、餅、お菓子、手作り品などの販売と食事の提供をしている。店内では魚沼産コシヒカリのおにぎりはもちろん、定食、うどん、カレーなどが食べられる。季節の食材を使った定食は人気で、守門の素材で作る新定食の「すもん紫芋おはぎ」も販売予定。ハンバーガーなどテイクアウトのメニューもあり、郷土料理のお弁当も予約で対応。



住 〒946-0216 新潟県魚沼市須原1373-3
営 9:00～15:00(5月～11月の土日に営業) 定 月曜日～金曜日

只見線のおすすめグルメ♪ 沿線で味わう郷土の美味!



魚沼市 コーヒーハウスてくたく

おすすめ ツナクリームピラフ

扉を開けるとコーヒーの香りが漂う落ち着いたお店。コーヒーは注文のつど豆を挽き、味と香りを大切にしている。おすすめは、じっくり煮込んだ自家製のホワイトルーがたっぷりかかった「ツナクリームピラフ」。クリームとツナの優しい味わいとピラフの組み合わせはこの店ならではの人気がある。時間帯によりモーニングサービス、ランチタイムサービスがあり、パフェやお子様メニューもあるので家族でも安心。



住 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島124-25
営 9:30～21:00 (ラストオーダー20:45) 定 水曜日



魚沼市 そば処富永

おすすめ 天ざる

小出にあるそばの名店。一番人気の天ざるは、太めの二八そばと揚げたての天ぷらの組み合わせ。天ぷらは銅鍋で揚げているのでカラッとサクサク、そばつゆは枕崎産の鰹節を使用している。天丼などの丼物や定食、そばやうどんと丼物との合わせ膳もある。また、緑川酒造や玉川酒造など地元の酒蔵の日本酒や焼酎をそばに合わせて頂くこともでき、栃尾の油揚げや玉子焼きなど一品料理も充実している。



住 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島595-5 定 木曜日
営 平日・土曜11:00～15:00 / 17:00～22:00 (ラストオーダー21:30) / 日曜・祝日11:00～22:00



魚沼市 カレー屋ロミ

おすすめ ロミカレー

小出橋のたもとにある本格スパイスカレーのお店。子どもからお年寄りまですべての年代が食べやすいスパイスカレーを提供している。カレーは8種類から10種類のスパイスを使い、 Tandoriチキンプレートなどもメニューに並び、定番の「ロミカレー」はターメリックライスにトマトとほろほろチキンを合わせ、こだわりのスパイスでまとめたカレー。レモンケーキやプリンなどの自家製デザートもあり、一息つけるお店だ。



住 〒946-0005 新潟県魚沼市横町1-3 定 水曜日、木曜日
営 11:00～15:00 / 18:00～20:30 (夜営業は金・土のみ)



魚沼市 富士屋

おすすめ プチ小出セット

小出駅のすぐ近くにある地酒の販売店。緑川酒造、八海醸造、朝日酒造、高千代酒造のお酒を取り扱っている。緑川酒造のお酒は信類のおける正規特約店のみで販売している。緑川を扱うお客が多い。おすすめの「プチ小出セット」は緑川の合ピンと、小出にある煎餅の老舗「山文」のおかきをセットにした手頃な商品で、列車の車内で楽しむのにぴったり。5月から11月はレンタサイクルも借りられる。



住 〒946-0007 新潟県魚沼市四日町1451-1
営 8:30～18:30 定 木曜日



魚沼市 いな穂

おすすめ おすすめランチ

日本料理がメインのお店。鮮魚、そば、肉など吟味した食材を使い、食器や盛り付けにもこだわりを持って料理を提供。昼限定の「おすすめランチ」は刺身や煮物などのかご盛り、天ぷら、茶わん蒸しなどを彩り豊かに盛り合わせたお得なセット。ステーキランチや海鮮丼ランチもおすすめ。特選牛のすき焼きやしゃぶしゃぶ、特製うな重、予約すればフグ料理やスッポン料理も味わえる。



住 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島730-2
営 11:00～14:00、夜は予約のみ 定 月曜日



魚沼市 ビストロ ア・ラ・ラ

おすすめ ポークソティの生姜焼きソース

和洋中と様々な料理に加え各種ワイン、ビールを揃えている。ランチタイムのセットメニューは肉料理(ポークソティの生姜焼きソース)と魚料理(カラスガレイのムニエル)などがあり、手頃な値段で美味しい料理が楽しめる。トマト系、白ワイン系、クリーム系などのスパゲティ、和牛のサーロインステーキもおすすめ。店内には絵画が飾られており、招き猫グッズもたくさん。



住 〒946-0002 新潟県魚沼市稻荷町1-18
営 11:00～14:30 / 17:00～20:30 定 水曜日



魚沼市 トライアングル

おすすめ オムライス

気さくなマスターご夫婦によるカフェレストラン。その場でこねて作るハンバーガー定食をはじめ、トンカツ定食、ミックスピザ、ピラフ、ドリア、グラタン、サンドイッチなど幅広いメニューには目移りしてしまう。中でもオムライスはテレビでも紹介されて人気が高い。熱々の大きなオムライスにはデミグラスソースがかかり、具材のパターで炒められた鶏もも肉と玉ねぎと相性抜群。店内の雰囲気も良く、常連も多い。



住 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島332-30
営 9:00～19:00 定 木曜日、第二・第四金曜日



魚沼市 富貴亭

おすすめ イワナ定食

小出駅にある食堂。店内には地下水を引いた生け簀がありイワナが泳ぐ。おすすめの「イワナ定食」は、イワナの塩焼きにご飯とみそ汁がついていて、ふわふわで香ばしいイワナの塩焼きはご飯が進む。ハ丁みそをベースにした自家製のみそだれを使った「みそカツ丼」も若い人たちに人気がある。へぎそばやうどんもあり、小出駅を利用する人や地元の人たちに愛されている。



住 〒946-0007 新潟県魚沼市四日町1415
営 11:00～17:00 定 火曜日

只見線の甘い誘惑♡ 沿線スイーツ&パンの旅♪



魚沼市 甘泉堂

おすすめ 魚沼コルネ

明るく広い店内には季節のフルーツを使ったケーキが常時25種類、焼き菓子30種類が並び、一番人気の「魚沼コルネ」はカスタードとショコラの二種類があり、サクサクのパイ生地と濃厚なクリームがたっぷり詰まっていて、一日に700本売れることも。パイ生地にカスタードベースのアイスクリームを詰めた「アイスコルネ」もパナラとショコラの二種類があり、夏場には特に好評。マカロンやクッキーの他、魚沼の地酒ケーキ、鮎もなかも定番商品としてお土産に買っていく人が多い。



住 〒946-0076 新潟県魚沼市井口新田701-1
営 9:30～18:30 定 1月1日



只見町 三石屋

おすすめ そぼろぱん はちみつプリン

只見駅の近くにあるパン・お菓子屋さんで、「そぼろパン」が名物。「そぼろパン」は口どけのよいパンに甘くてしっとりしたクリームが挟んであり、軽い食感で何個でも食べられる。甘さ控えめの「はちみつプリン」は、上は少し固めで中は柔らかく、安くて美味しい三石屋のケーキも人気。午後にはほとんどの商品が売り切れてしまうため、午前中に行くのがおすすめ。



住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町只見宮前1303-8
営 平日8:00～19:00/土日8:00～18:00 定 不定休



柳津町 赤べこ堂

おすすめ 杵つき団子

会津産のお米を使った餅や団子などの甘味を提供。ぜんざい、焼き団子、揚げ餅、クラフトアイス、クリームソーダ、スムージー、玄米せんべいなど幅広く取り揃えている。団子はふかした米を杵でついて作っており、餅のような弾力のある団子に仕上がっている。杵つき団子に使われているあんこは、小豆ときび糖だけを使い地元のおもあちゃんが手作りしたあんこ。増粘剤や安定剤を使わないクラフトアイスは、さっぱり感、後味の良さで人気が高い。



住 〒969-7201 福島県河沼郡柳津町柳津寺家町甲150
営 10:00～17:00 定 毎月の営業日は公式Instagram(@akabekodo)でお知らせしています。



会津若松市 七日町駅カフェ

おすすめ 名水水出しコーヒー

七日町駅の駅舎を改装してできたカフェ。レトロな雰囲気を感じさせる内装で、会津の名水で淹れたコーヒーやシフォンケーキがおすすめ。駅カフェの店内は会津17市町村のアンテナショップになっていて、それぞれの市町村のお土産やグッズを販売している。



住 〒965-0044 福島県会津若松市七日町5-1
営 9:00～18:00 定 不定休



魚沼市 ロリアン

おすすめ メロンパン

小出の老舗パン屋さん。なるべく添加物を使わず、自然由来の素材を使って安心して食べられるパンを作っている。店内には焼きたてのカレーパンやソーセージロール、食パンやフランスパン、サンドイッチなどが並び、お店の看板商品はなんといってもメロンパン。砂糖とマーガリン、卵のみのシンプルな材料でしっかり焼いたメロンパンは飽きのこないおいしさ。リーズナブルなあんぱんや食パンも人気で、いつまでも変わらないおいしさを大事にしている。



住 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島513
営 9:00～18:00 定 日曜日、不定休



魚沼市 お菓子工房まるみや

おすすめ お米のバウムクーヘン 魚沼の木

まるみやでは、低温殺菌牛乳や栄養豊富な県産の赤たまご、自然風味豊かなきび砂糖や天然バニラビーンズなど、素材にこだわった安全安心なお菓子作りを続けている。注文を受けてからクリームを詰めるクッキーシュー、赤卵を使用したスポンジ生地に軽い口当たりの純生クリームをサンドした「まるみやロール」が人気。看板商品の魚沼産コシヒカリの米粉だけを使ったバウムクーヘン「魚沼の木」は発酵バターが香りが高く、職人の丁寧な仕事が光る逸品。



住 〒946-0108 新潟県魚沼市親柄492-10
営 10:00～18:00 定 月曜日、火曜日



金山町 カンケベーカリー

まるで「会津川口駅の待合室」のようなパン屋さん!?会津川口駅のお向かいにあるベーカリーさんのドアを開けるとホッとするような笑みのおかみさんが迎えてくれました。お隣には常連さん。息子さん?と思ってしまうほど仲良し常連さんです。会津川口駅では14:58から30分停車時間があるそうで、待っている間にパンを片手におかみさんとお喋りしている常連さんがたくさんいるとか。パンを選んでいるとまた1人常連さんが、ちょっと立ち寄るつもりが帰りに帰らなくなる実家感。。。という長居してしまう常連さんの気持ちかわかります。王道パンから、会津名物赤力チョコケーキ、「ユーホー(クリームパン)」「ニョッキ(チーズハムマヨネーズ)」などお茶目なネーミングのパンなど種類豊富、46年間愛されている金山町唯一の手作りパン屋さん。休憩がてら是非お立ち寄りください。

住 〒968-0011 福島県大沼郡金山町川口森ノ上473-2
☎ 0241-54-2926 営 10:00～18:00 定 金曜日



会津坂下町 焼き芋 陽

きっかけは夫婦で経営している美容室で、サービスとして提供していた焼き芋。コーヒーと焼き芋のセットで笑顔になる客さんを見て、お客さんの「売らないの?」という声がけもあり、お店を始める決意をしたのだそう。地域のスタッフの皆さんとより美味しいお菓子のために何度も試行錯誤を繰り返したり、お店を経営するにあたって大学で学び直すなど、お店立ち上げの背景には様々な努力の過程がありました。そんな努力を経て完成したお菓子は大好評!さつまいもはじっくり繊細に育てられた、最高級に甘い戸産のべにほろを使用。添加物は一切使わず、有塩バターによって引き出されるさつまいも本来の旨みたまらず夫婦で協力し合って立ち上げた焼き芋屋。もともと高校が同じだった2人は、成人式帰りの電車でもばったり再会。「もしもそこで出会わなかったら今ごろ2人は?お店では?」と考えると、2人が引き寄せた奇跡を感じます!

住 〒969-6557 福島県河沼郡会津坂下町市中四番甲3796
営 11:00～17:30 (無くなり次第終了) 定 月曜日

～旅の思い出に♪只見線お土産めぐり～

奥会津ビジターセンター

観光物産館併設の施設。豊かな自然環境や奥会津の絶景、只見線について紹介している。
開館時間：9:00～17:00
定休日：月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）



観光物産館清柳苑

観光物産館清柳苑には奥会津のお土産やお酒がたくさん並び、季節の野菜も販売している。お食事処では手打ち十割そば、柳津ソースカツ丼などが味わえる。



やないづ町立斎藤清美術館

世界的に評価が高く、晩年は柳津町に住んでいた版画家の斎藤清画伯の作品を紹介する美術館。
開館時間：9:00～16:30（最終入館16:00）
定休日：月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

道の駅 会津柳津

住 〒969-7201 福島県河沼郡柳津町大字柳津字下平乙181-1
営 9:00～18:00、冬季（12月～3月）9:00～17:00 定 なし

1階食堂おすすめメニュー

会津地鶏カレー、会津地鶏親子丼、桐炭ソフトクリーム

2階桐タンス展示販売

会津桐タンス株式会社による会津桐を使用したタンス。機械をつかわず、ノミなどの手道具で1/100mm単位で調整。

道の駅 尾瀬街道みしま宿

住 〒969-7515 福島県大沼郡三島町川井天屋原610
営 8:00～18:00 定 不定休

奥会津金山天然炭酸水

奥会津金山の雪解け水に天然炭酸が溶け込みポコポコと自然に湧き出る天然炭酸の水。天然の炭酸が含まれる日本で唯一の湧水です。微炭酸なので炭酸が苦手な方でも飲みやすいです。



金山町公式キャラクター妖精かぼまる

頭は「赤かぼちゃ」、胸のリボンは「天然炭酸水」でできています。好きなものは、赤かぼちゃ、炭酸水、温泉。ぬいぐるみをはじめ、いろんなグッズが売っているのぜひ集めてみてください。



とろ～りショコラ 霧幻峽

奥会津の絶景 霧幻峽。その絶景を思い、会津の風土を愛する人々の手によってつくられた、とろける食感のショコラクッキーです。さくさくとした繊細な食感のチョコレートクッキーの中に、とろ～りとろける濃厚チョコレート。ひとつ食べると、心を清らかに溶かしてくれる霧幻峽の景色が思い浮かびます。



奥会津金山どら焼き

あんこには名物の赤かぼちゃ、生地には奥会津金山天然炭酸水が使用されています。しっとりとした皮の食感のあとに、主張しすぎない赤かぼちゃの風味を感じます。普通のあんこよりも甘すぎずほんのりとした甘さがやみつきます。



「赤かぼちゃ」のお土産がいっぱい!



金山町観光情報センター

住 〒968-0011 福島県大沼郡金山町川口森ノ上
営 8:00～16:00 定 不定休

お米メール

当時、只見町の小学校6年生の角田 杏さんが、切手を貼って送れる「お米メール」を企画・デザインしました。地元で走っている只見線に関わることで、応援しながら只見町のおいしいお米をたくさんの人に食べてほしいという想いが込められています。2合入りのパッケージは、このまま郵便で送れるようにデザインされています。杏さんのアイデアと想いがこもったお米メールを大切な方に贈りませんか。只見線応援商品として、ご自身やプレゼントにもおすすめです。



只見ポンせん

只見産胚芽玄米100%使用のヘルシーなおせんべい。しょうゆ味と塩味があります。特に塩味は薄味なので玄米そのものの素材の味が感じられるのと、よりヘルシーでダイエット中の方にも優しい!



只見町インフォメーションセンター

住 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字雨堤1018-1
営 9:00～17:00 定 なし



柳津町名物「あわまんじゅう」

柳津町の名物「あわまんじゅう」は4店舗で作られています。それぞれの店舗を紹介。



大栗まんじゅう

いなばや菓子店

いなばや菓子店のあわまんじゅうは、粒あんを使用しているのが特徴。粒あんが好きだった店主が美味しい粒あんであわまんじゅうを作りたいと始めた。粒あん、桜あん、白あん、ずんだの四種類のあわまんじゅうがあり、カラフルなあんで様々な味を楽しめる。他にも、大栗まんじゅう、茶まんじゅうがあり、好きなあんの組み合わせで詰め合わせもできる。



住 〒969-7201 柳津字岩坂町甲208
営 9:00～17:00 定 不定休



岩井屋

岩井屋の「元祖あわまんじゅう」は甘さを抑えて、あわの粒々感が残るようにしている。できたての温かいまんじゅうはもちもちした食感で美味しく食べることができる。他にも栗饅頭、茶饅頭なども作っており、清流を泳ぐ鮎をイメージした「鮎もなか」も販売している。



住 〒969-7201 柳津字寺家町甲147
営 9:00～17:00 定 不定休



小池菓子舗

小池菓子舗のあわまんじゅうは、地元の農家と契約し地元のあわともち米を100%使用している。あんも国産小豆を使用した自家製あん。店内にはカフェスペースもあり、蒸したてのあわまんじゅうを味わえる。栗まんじゅうや茶まんじゅうなどのお土産商品、あわぜんざいなども取り揃えている。



住 〒969-7201 柳津字岩坂町甲206
営 8:30～18:00 定 無休



栗饅頭

はせ川屋

はせ川屋のあわまんじゅうは特上のあんを使用して、添加物は一切使っていない。刻んだ栗やペーストではなく、栗が丸々一個入っている栗饅頭も人気があり、栗饅頭には黒あんを使用。通年で作っているゴマ饅頭の他、「季節饅頭」は、春は桜、夏はヨモギ、秋はサツマイモと、季節に合わせたあんを使っている。



住 〒969-7201 柳津字岩坂町甲180
営 8:00～17:00 定 不定休

日本酒・焼酎・ワイン特集

只見線沿線では日本酒の酒蔵も多くあり、焼酎やワインも生産されています。只見線の列車に乗って、お酒を楽しむ旅はいかがですか？

白井酒造店

白井酒造店の代表銘柄「萬代芳」と「風が吹く」は自然農法無の会による会津産有機栽培の酒米「五百萬石」で仕込んでいます。



会津美里町

男山酒造店

約二十年前におよぶ生産休止から閉業の危機にあったが、見事に再生、復活を遂げた。「会津男山」や「回」シリーズが代表銘柄。



会津美里町

新鶴ワイナリー

新鶴地区の日当たりと水はけのよい扇状地で栽培された、ワイン醸造専用ブドウを使ったワインを生産。ブドウの栽培からワインの醸造まですべて会津で行っている。



会津坂下町

廣木酒造

無濾過生原酒「飛露喜」が有名。この酒が爆発的な人気となり、廣木酒造の名を全国区に押し上げた。切れ味、香りのバランスが絶妙な「泉川」も評価が高い。



会津坂下町

豊国酒造

代表銘柄の「學十郎」は芳醇な香りが特徴で、「豊國」や「真実」、「ぼんげぼんげ」なども人気。「スパークリング日本酒」でも高い評価を受けている。



会津坂下町

曙酒造

「天明」や「二生青春」などが代表銘柄で、ヨーグルトベースの「Snowdrop」や梅酒なども生産。敷地内にワイナリーを整備し会津産ブドウを使ったワイン生産も計画している。



魚沼市

玉川酒造

代表銘柄の「玉風味」をはじめ、日本酒仕込みのリキュールや梅酒など色々なお酒を製造販売している。越後須原駅の近くにある酒蔵では予約不要、無料で一人から酒蔵見学と試飲ができる。



魚沼市

緑川酒造

敷地内からくみ上げる地下水と希少な酒米「北陸12号」で仕込む「緑川」は銘酒として有名。信頼できる特約店のみ商品をお卸しているが、小出駅近くの酒販店などでは購入が可能。



只見町

合同会社ねっか

只見町の米を使った米焼酎「ねっか」。日本酒の吟醸酵母と清酒用の麹菌を使用して発酵させた「もろみ」を蒸留して焼酎を作っている。只見駅前の醸造所では「ねっか」も製造販売している。



お酒が買える場所

会津旨酒五ノ井酒店

☎ 969-6536 福島県河沼郡 会津坂下町市街一番甲3551
☎ 0242-83-2170
☎ 無休

新鶴ワイナリー

☎ 969-6403 福島県大沼郡 会津美里町鶴野辺字下長尾2398
☎ 0242-23-9899
☎ 月曜日(祝日の場合は翌日)

只見町インフォメーションセンター

☎ 968-0421 福島県南会津郡 只見町大字只見字雨堤1018-1
☎ 0241-82-5250
☎ 無休

玉川酒造株式会社

☎ 946-0216 新潟県魚沼市須原1643
☎ 025-797-2777 (お買い物・酒蔵見学)
☎ 1月1日

富士屋

☎ 946-0007 新潟県魚沼市四日町1451-1
☎ 025-792-0038
☎ 木曜日

日帰り温泉特集

只見線沿線には日帰り温泉もたくさんあります。
旅館に泊まってゆっくり温泉につかるのもおすすめ。

会津美里町

本郷温泉 湯陶里

住 会津美里町字六日町甲4106-1
TEL 0242-56-4364
営 10:00～21:00 (最終受付20:30)
定 毎週水曜日 (祝祭日の場合は翌日)、元日

会津美里町

新鶴温泉んだ

住 会津美里町鶴野辺字上長尾2347-40
TEL 0242-78-2820
営 8:00～21:20 (最終受付20:30)
定 毎月第1木曜日

柳津町

つきみが丘町民センター

住 柳津町柳津諏訪町甲61-2
TEL 0241-42-2302
営 9:00～21:00
定 毎週火曜・金曜は清掃のため9:00～13:00休み

柳津町

西山温泉山村公園せいざん荘

住 柳津町大字砂子原字長窪921
TEL 0241-43-2727
営 10:00～20:00
定 月曜日 (月曜が祝日の場合は翌日)

三島町

宮下温泉ふるさと荘

住 三島町大字名入字赤谷2437
TEL 0241-43-2720
営 13:00～20:30
定 月曜日

三島町

桐の里倶楽部

住 三島町大字名入字上赤谷2402-1
TEL 0241-52-2828
営 14:00～20:00
定 水曜日

三島町

保養センターひだまり

住 三島町大字宮下字下乙田889
TEL 0241-52-2913
営 13:30～20:00 (最終受付19:30)
定 火曜日

三島町

早戸温泉つるの湯

住 三島町大字早戸字湯ノ平888
TEL 0241-52-3324
営 10:00～20:00 (最終受付19:30)
定 無休

金山町

温泉保養施設せせらぎ荘

住 金山町大字玉梨字新板2049-1
TEL 0241-42-2830
営 9:00～21:00
定 無休

金山町

玉梨温泉共同浴場

住 金山町大字玉梨字横井戸2786
TEL 0241-42-7211 (金山町観光物産協会)
営 9:00～21:00
定 無休

金山町

亀の湯共同浴場(八町温泉)

住 金山町大字八町字居平619
TEL 0241-42-7211 (金山町観光物産協会)
営 24時間
定 無休

金山町

共同浴場湯倉温泉

住 金山町大字本名
TEL 0241-42-7211 (金山町観光物産協会)
営 7:00～20:00 (4月～7月) 7:00～19:00 (12月～3月)
定 日・木曜日は定期清掃のため18:00まで

金山町

大塩温泉共同浴場

住 金山町大字大塩休場3103-1
TEL 0241-42-7211 (金山町観光物産協会)
営 7:30～20:00 (4月～10月) 8:30～20:00 (11月～3月)
定 無休

金山町

中川温泉(福祉センターゆうゆう館)

住 金山町大字中川字沖根原1324
TEL 0241-55-3336
営 11:00～20:00 (平日、土曜) 12:00～20:00 (日曜、祝日)
定 無休

昭和村

昭和温泉しらかば荘

住 昭和村大字野尻字廻り戸1178
TEL 0241-57-2585
営 10:00～16:30 (退出17:00)
定 施設メンテナンスのため臨時休業の場合あり

只見町

季の郷湯ら里

住 只見町大字長浜字上平50
TEL 0241-84-2888
営 11:00～20:00
定 不定休

只見町

深沢温泉むら湯

住 只見町長浜字上平55 TEL 0241-84-7707
営 9:00～21:00 (最終受付20:30まで)
12月～3月は9:00～20:00 (最終受付19:30)
定 毎月第3水曜日

魚沼市

浅草岳温泉(浅草山荘)

住 魚沼市大白川887-127
TEL 025-796-2331
営 11:00～17:00 (最終受付16:30)
定 施設定休日と併せて休館

魚沼市

寿和温泉

住 魚沼市穴沢12 TEL 025-796-3033
営 12:00～20:00 (平日) 10:00～20:00 (土日祝)
(最終受付19:00)
定 木曜日 (木曜が祝日の場合は翌日)

魚沼市

神湯温泉倶楽部

住 魚沼市清本583番地
TEL 025-799-3350
営 10:00～22:00 (最終受付21:00)
定 不定休

魚沼市

青島温泉 見晴らしの湯 こまみ

住 県魚沼市青島2083-1
TEL 025-792-8001
営 10:00～20:30 (最終受付20:00)
定 毎週火曜日 (祝日の場合は営業)、12月31日

魚沼市

薬師温泉 ゆ〜パーク薬師

住 魚沼市七日市新田643-1
TEL 025-792-5554
営 10:00～21:00 (最終受付20:00)
定 毎週水曜日 (水曜が祝日の場合はその翌日)



霧幻鉄道 只見線を300日撮る男

「霧幻鉄道 只見線を300日撮る男」は、奥会津郷土写真家の星賢孝さんの活動を追ったドキュメンタリー映画です。自分たちが住んでいる奥会津の存続に大きな危機感を感じていた星さんは、只見線が走る風景を写真に撮りインターネットで世界へ発信します。数十年の地道な努力が実り、台湾など海外から只見線の写真を撮る観光客が奥会津へ来るようになります。星さんや只見線を支える人たちにスポットを当て、新潟・福島豪雨で被災した只見線存続への議論や復旧への道のりを記録しています。



青春18×2 君へと続く道

映画「青春18×2 君へと続く道」は日本と台湾の合作映画で、台湾に住むジミー（シュー・グアンハン）と、日本人のアミ（清原果耶）が出会う切ないラブストーリーです。アミは只見町の出身で、映画の中には只見線や只見町の風景が登場します。

映画の中で使用されたアミが描く絵は、藤井道人監督の姉で絵本作家の吉田瑠美さんが手がけました。映画を見た只見中学校（当時）の角田杏さんが、吉田さんに只見線の無人駅に絵を描いてほしいと依頼し、吉田さんが会津塩沢駅と会津蒲生駅の壁に只見線が走る只見町の風景を描きました。



▲会津蒲生駅



会津塩沢駅▶

男はつらいよシリーズ

「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」

男はつらいよシリーズの第36作「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」の冒頭、寅さんが夢から目覚めるシーンは会津高田駅で撮影されました。その後には会津盆地を走る只見線の列車や寅さんが柳津を訪れるシーンもあります。会津高田駅には映画の撮影が行われたことを示す看板も設置されています。



「男はつらいよ 奮闘編」

男はつらいよシリーズ第9作「男はつらいよ 奮闘編」では、映画の冒頭で越後広瀬駅が登場します。越後広瀬駅を訪れた寅さんは、集団就職で家族と別れる学生たちに声をかけ、がんばるようにと励まします。寅さんは学生たちが乗った列車を残った家族と共に見送りますが、自分もその列車に乗ることを忘れていたのです。



映画で見る只見線特集

只見線沿線で撮影された映画をご紹介します。
只見線に乗ってから映画を見ますか？
それとも映画を見てから只見線に乗りますか？

開通二〇〇年 只見線の建設と選奨土木遺産

目黒公司

1. 鉄道敷設計画

(1) 磐越西線の建設

① 会津への鉄道敷設運動

明治五年十月十四日、新橋から横浜間に日本で初めての鉄道が開通します。その後、各地で鉄道建設の計画が立てられます。

福島県では日本鉄道株式会社により、明治二十年七月に栃木県の黒磯から郡山間が開通、十二月には郡山から宮城県の大塩間が開通します。

郡山駅の開業により、会津では郡山から若松、津川を経て新潟に至る鉄道を建設しようとする動きが始まります。鉄道建設は政府や帝国議会に請願する形をとるようになり、明治二十四年には官設で鉄道を建設するよう運動する「磐越西線期成会」が作られます。

会津では磐越西線（現在の磐越西線）の敷設に向けて代表が請願するなど活発な運動を続け、日本の幹線となる鉄道路線を定めた鉄道敷設法では磐越西線が北越線及び奥羽線の連絡線として官設の予定線のひとつとなりましたが、路線は定まっておらず第二期線に繰り入れられたため建設がいつになるかは未定でした。

只見線は福島県の会津若松駅から新潟県の小出駅までをつなぐ一三五・二kmの鉄道路線です。今年（二〇二六年）は只見線の一部である会津若松駅から会津坂下駅間が開通してからちょうど一〇〇周年になります。

只見線は一度にすべてが建設されたわけではなく、会津若松駅から会津坂下駅間が開通してから段階的に建設されてきました。現在、只見線となっている路線は、鉄道計画の上では大きく分けて会津若松から柳津までの区間と、柳津から小出までの区間に分けられ、二つの鉄道計画が重なってできています。只見線は沿線地域の要請やその時々々の社会状況、経済・産業面での必要性などから建設がなされ、全線開通までには四十年以上かかりました。

ここでは、只見線の建設過程について、社会的な背景や何を期待して鉄道が造られたのかを、沿線の人々の生活や産業、学校の通学や交通のあり方などを含めてみていきたいと思います。只見線は磐越西線や現在の会津鉄道会津線、上越線や上越新幹線とも関わっていますので、それらの路線の建設なども踏まえ、土木学会選奨土木遺産の「只見線鉄道施設群」についても紹介したいと思います。

② 磐越西線株式会社による郡山から若松までの鉄道建設

会津では磐越西線を、優先的に建設される第一期線に繰り入れるよう盛んに運動を続けていきましたが、官設では建設実現がいつになるかわからないので、私設の鉄道会社を創立し民間会社によって早急に鉄道を敷設するという方針に変化します。

福島県知事の山下義雄の提唱で会津地方などで出資金を募り、明治二十九年には磐越西線株式会社の創業総会が開かれ、社長に本多衛政、取締役に渋沢栄一らが選出されます。磐越西線株式会社は明治三十年十一月に郡山で起工式を行い、翌年の七月には郡山から中山宿間が開通、明治三十二年三月には中山宿から山崎間が開通、七月十五日には山崎から若松間が開通し、郡山から若松まで鉄道が開通しました。これが現在の磐越西線の郡山から会津若松間です。

③ 南会津郡の動向

郡山から若松を経て新潟へつながる鉄道を建設しようとする運動には会津全体が関わっていましたが、鉄道敷設法で第二期線に繰り入れられ会津への鉄道建設がいつになるか未定となると、鉄道が直接通らない南会津郡は運動から離脱します。

南会津郡では明治二十五年に官設での「磐越西線」の運動を始めます。これは栃木県の今市から若松を経て新潟へ至る鉄道で、磐越西線が想定する郡山から分岐して若松へ行く鉄道では南会津郡を通らないため、今市から南会津郡の田島を経由して若松へ行く鉄道を構想します。

その後、南会津郡でも私設の鉄道会社を設立して鉄道を建設する方針となり、明治二十八年に今市から若松への鉄道を建設する「磐越西線株式会社」の創立発起人総会を開きます。しかし、この

会社は仮免許の期限が切れるまでに書類がそろわず、会社創立の本免許取得に至りませんでした。

④ 若松から喜多方までの区間の問題

郡山から若松まで鉄道を建設した磐越西線株式会社は、建設に多額の工費がかかったため会社は資金難に陥っていました。そこで、磐越西線株式会社は郡山から若松までの区間が開通する前年に、若松から喜多方を経由して野沢へ行く予定だった鉄道路線を、若松から坂下を経由に変更することを考えます。若松より西は喜多方経由よりも坂下経由の方が工費が安くなるという見通しからの路線変更計画でした。

喜多方町では若松まで鉄道が開通すれば次は喜多方に鉄道が来ると考えていたので、磐越西線株式会社の路線変更に取り消しを求めます。一方の坂下町では路線変更により自分たちの町に鉄道が来ることを期待したため、喜多方と坂下とで磐越西線の路線をめぐる争いとなります。

そのため磐越西線株式会社は若松駅までで鉄道工事を打ち切り、若松から西は無期延期としました。会社は喜多方と坂下の委員と協議を進め、明治三十五年の株主総会で若松から喜多方間の工事開始を決議しましたが、株金の未払いが多数あり工事の着手が困難であったため、喜多方町が未払株式の欠損額を引き受けて会社を援助しました。

喜多方町の援助で資金が確保されたことにより工事が進み、明治三十七年一月に若松から喜多方間が開通します。

⑤ 磐越西線の国有化と全線開通

岩越鉄道は若松から喜多方間が開通した後は工事が進みませんでした。明治三十九年に鉄道国有法が制定公布され、全国の主要私鉄は原則として国有化されることとなります。岩越鉄道も国有化されることになり、岩越鉄道の路線は政府による「岩越線」となりました。

南会津郡では野岩鉄道株式会社の設立が頓挫した後、岩越鉄道の鉄道国有化を受け、今市から田島、喜多方を経て米沢へ行く「野岩羽鉄道」を構想し、政府が建設するよう帝国議会へ請願するなどの運動をしますが、目的を達することはできませんでした。岩越線は郡山から喜多方までは開通していたものの、喜多方から新潟県の新津までの区間は未着手だったため、明治四十年から新津、喜多方双方で工事が始まります。

新潟県側の新津から馬下間は明治四十三年十月に開通。同年十二月には喜多方から山都間が開通します。続いて馬下から津川間は明治四十二年六月に開通。同年八月に山都から野沢間も開通します。

最後に残った津川から野沢間は明治三十三年十一月に開通しました。津川から野沢間が開通したことにより、岩越線は郡山駅から新津駅まで全通し、新津駅からは信越本線で新潟駅につながりました。その後、大正六年に郡山駅から現在のいわき市の平駅間が全通したことにより、郡山から平を結ぶ路線は「磐越東線」、郡山から新津を結ぶ岩越線は「磐越西線」と名称が変更されます。また、大正六年五月に若松駅は会津若松駅に改称されています。

(2) 会津の各郡の軽便鉄道の計画

明治三十九年の鉄道国有法により主要な鉄道は国有化されますが、私設鉄道を建設するための「私設鉄道法」は許認可の条件が

なっていました。

③ 河沼郡

岩越線(磐越西線)が誘致できなかった坂下町では、明治末頃から若松から坂下、柳津へ至る軽便鉄道を構想していたようです。大正時代になると具体的な計画となっていくます。

大正五年には柳津軽便鉄道株式会社を設立し、若松から高久、勝常、坂下を経て柳津まで軽便鉄道を建設する計画が立てられます。この計画では会津盆地を横切る越後街道に沿って坂下町に至る路線を想定しています。

会社の創立趣意書では、坂下町は若松市に次ぐ市街地で木綿や清酒、人参など多様な産業があるが、磐越西線が開通してからは町が衰微している、軽便鉄道を建設すれば昔の状態に戻ると、さらに進展するとしています。また、若松から坂下、柳津への軽便鉄道があれば只見川流域の山林資源や鉱物などを柳津駅から出荷できるので産業の振興に役立ち、柳津虚空蔵菩薩の参拝者も大幅に増加すると予想しています。軽便鉄道建設の目的は坂下町の振興、只見川沿いの資源開発、柳津虚空蔵菩薩の参詣の三点となり、若松から坂下町で止めるのではなく、柳津まで伸ばすことで只見川沿いの開発と柳津虚空蔵菩薩の参詣者増加を見込んだ計画となります。



柳津の虚空蔵堂

しかしながら、柳津軽便鉄道株式会社も資金調達がうまくいか

なかったため、私設鉄道の新規敷設はほとんどなくなっていました。

そこで、政府は明治四十三年に鉄道の軌間(レールの幅)や設備を簡易にし、大幅に規制を緩和した「軽便鉄道法」を公布し、従来の鉄道よりも小規模で簡易的な鉄道を建設しやすくします。これにより全国で軽便鉄道の敷設が増えていくこととなります。

会津では岩越線の開通により若松や喜多方、野沢には鉄道が通りましたが、それ以外の地域はまだ鉄道がなく、南会津郡、大沼郡、河沼郡それぞれで軽便鉄道を敷設する計画が立てられます。

① 南会津郡

南会津郡では私鉄での野岩鉄道株式会社の設立や官設での野岩羽鉄道の運動が実現しなかったため、今度は軽便鉄道を建設する計画が持ち上がります。

大正二年に南会津郡会(郡の議会)は「田島・若松間軌道敷設速成に関する意見書」を福島県知事に提出します。これは若松から田島間に軽便鉄道を建設する計画で、将来的には塩原まで延長するというものでした。

② 大沼郡

高田を中心とする大沼郡でも、大正四年に大沼郡会で軽便鉄道の計画が持ち上がります。これは若松駅から本郷町、高田町、永井野村等に達する軽便鉄道を敷設するというもので、郡会で調査をして大正七年までには設計もできていたようです。計画では永井野村等に達するとしていますが、永井野から博士峠を経て大沼郡内の昭和村方面への延伸を考えていたのかもしれない。

しかしながら、大沼郡の軽便鉄道の計画は途中で取りやめと

ず会社を設立することはできませんでした。

(3) 八田宗吉と若松・田島・柳津間の軽便鉄道決定

大正時代の前半には南会津郡、大沼郡、河沼郡で、若松駅からそれぞれの郡に行く軽便鉄道の計画が立てられていましたが、資金などの問題からいずれも実現はしませんでした。しかしながら、これらの計画は後に只見線となる会津線の基となっています。

会津線の建設決定に大きな役割を果たしたのが衆議院議員であった八田宗吉でした。

八田宗吉は河沼郡日橋村の出身で大正六年に衆議院議員に当選します。八田宗吉は大正七年の第四十回帝国議会会で若松柳津間の軽便鉄道敷設に関し、会津は雪が深く冬期間の交通が不便で資本家も進んで投資をすることがない。そのため会社の設立ができないので政府の力で軽便鉄道を敷設してほしいと訴えます。野岩羽鉄道に関しても上三寄から高田、本郷、坂下、喜多方に至る鉄道で交通機関が完備してくるとしています。八田は若松から坂下を通り柳津へ行く鉄道と、南会津から喜多方へ行く鉄道を坂下で交差させようと考えていたようです。

大正八年の第四十一回帝国議会会では、若松柳津間の軽便鉄道は私設会社では造ることができないので、政府の手で造ってもらいたいと請願します。八田は前年は若松から坂下へ行き柳津に至る軽便鉄道と、南会津から高田や坂下を通り喜多方へ行く野岩羽鉄道を主張していましたが、この頃には若松から新鶴村、坂下町を経て柳津に達する鉄道を主張するようになります。最初は河沼郡で立てていた軽便鉄道の計画を踏襲して帝国議会でも主張していたのが、徐々に大沼郡や南会津郡で立てられていた計画も合わせた主張に変わっていつているようです。

八田宗吉の建議などにより大正十年の第四十四回帝国議会で「若松・田島・柳津間軽便鉄道」敷設が可決されます。これは若松から阿賀川沿いに田島へ行く路線と、若松から本郷・高田・坂下を経て柳津へ行く路線を合わせたものとなります。田島と柳津では方向が異なりますが、この二つの路線が一つとして扱われているのは、南会津郡・大沼郡・河沼郡が独自に立てていた軽便鉄道の計画や野岩羽鉄道の計画が、八田宗吉の建議などにより一つの路線としてまとめられていった結果と思われます。そして、これが現在、只見線や会津鉄道会津線となっている路線の基であり、その一部となります。

(4) 柳津から只見を経て小出へ至る鉄道

① 上越線小出駅の決定と鉄道敷設運動

これまでに会津若松から柳津までの路線が決定する経緯を見てきましたが、次に柳津から小出までの区間についてみていきたいと思います。

柳津から小出間の路線に関しては、まず上越線の経路決定を考える必要があります。群馬県の高崎から新潟県の長岡を結ぶ上越線の敷設に関して、新潟県では湯沢から六日町や小出を通り長岡へ向かう経路と、湯沢から十日町を通り長岡へ向かう二つの経路が検討されていました。六日町や小出の人たちと、十日町などの人たちとで鉄道誘致の争いがありましたが、上越線は大正七年に六日町や小出を通る経路が確定します。

小出に上越線の駅が設置されることが決まると、次に若松から柳津の鉄道路線に接続する形で、柳津から小出間の鉄道が検討されるようになります。小出町出身の衆議院議員の櫻井庄平は上越線の経路確定に深く関わっていましたが、上越線の経路が確定す

めた法律でしたが、それらの幹線は明治時代にほとんど建設されたので、大正十一年の改正鉄道敷設法では幹線から伸びる支線となる路線を建設予定線として定めています。予定線の中にある、柳津から只見を経て小出に至る鉄道が、柳津から小出までの区間を建設する法律上の根拠となります。

このように、大正十年に若松・田島・柳津間の鉄道が決定し、大正十一年には柳津から只見を経て小出へ至る鉄道が改正鉄道敷設法の予定線になりました。現在の只見線はこの二つの鉄道計画によってできたものとなります。

改正鉄道敷設法に記載された予定線は着工時期や年限は定められておらず、建設の順番は鉄道会議で審議し、担当大臣へ答申する形をとっていました。そのため、予定線だからといってすぐに建設されるわけではないので、それぞれの予定線は早期建設に向け地元選出の議員らにより建設推進の議論がなされ、地元の人たちによる陳情なども続いています。

柳津から小出間の鉄道についても八田宗吉や、大沼郡雀林村出身で大正九年に衆議院議員に当選した中野寅吉らが建設実現に向け活動します。北魚沼郡広瀬村出身の衆議院議員であった関矢孫一は、大正十四年に帝国議会で柳津から小出間の鉄道の建設促進を建議しています。建議書の中で関矢孫一は沿線に眠る銅鉱などの地下資源や木材資源、水力発電の可能性に言及しており、これらの点がその後も柳津から小出間の鉄道建設のメリットとして主張されていくことになります。

2. 会津若松駅から会津坂下駅、会津柳津駅間の開通

(1) 会津坂下駅までの開通

ると小出駅から分岐して会津方面へ行く鉄道の実現に奔走することになります。

若松・田島・柳津間の鉄道は柳津が一方の終点となりますが、柳津よりも西の地域の人たちは柳津から鉄道を延長して新潟県の小出駅とつなぐ運動を始めます。伊北村(現在の只見町)では大正九年十一月に第一回鉄道大会が開催され、大会には福島県や新潟県の関係者らが多数集まります。そして、現在の只見町、金山町、三島町、小出町の村長や議員らの連名で柳津から小出間と只見から古町(現在の南会津町)間の鉄道敷設の陳情を衆議院や貴族院へ提出します。

大正十年には新潟県の沿線関係者らにより「小出柳津鉄道期成会」が発足し、須原村(現在の魚沼市)の目黒文平が会長に就任します。須原村の目黒家は江戸時代からこの地域に大きな勢力を持っていた家系で、目黒文平は生涯を通じて鉄道建設に尽力しました。

② 改正鉄道敷設法

期成会が発足してからは帝国議会の議員らへ働きかけがなされ、大正十一年に制定された改正鉄道敷設法では柳津から只見を経て小出に至る鉄道が予定線の一つに入られます。また、今市から高徳を経て田島へ至る鉄道も予定線の一つとなっており、田島から今市をつなぐ路線も予定線になりました。

明治二十五年の鉄道敷設法は全国の幹線となる鉄道路線を定



▶ 目黒家の住宅だった「目黒邸」

大正十年に決定した若松・田島・柳津間の鉄道(会津線)は、大正十二年に建設工事が始まり、会津坂下駅までの区間が開通したのは大正十五年十月十五日でした。これは今年(二〇二六年)からちょうど百年前のこととなります。

会津線は軽便鉄道法に準拠した国鉄軽便線(レールの幅は国有鉄道と同じで線路の規格が軽便鉄道の規格)としてとして建設されました。会津若松駅から会津坂下駅までの間には西若松駅、会津本郷駅、会津高田駅、新鶴駅、会津坂下駅が新しく設置されました。

① 西若松駅

西若松駅は坂下・柳津方面と田島方面との分岐となる駅です。駅的位置をめぐっては、予定地である材木町の東南は若松の市街より離れすぎているので、湯川北東部の適当な位置に設置するよう、地元の人たちが鉄道大臣に陳情書を提出しましたが、最終的には計画通りの位置(現在の位置)に決定しました。

② 会津本郷駅

会津本郷駅は陶磁器の生産地である本郷町の産物の出荷が期待されていました。

本郷では江戸時代から陶器や磁器が生産されており、急須や土瓶など、飲食器の生産が続いていましたが、明治時代になると送電線等の絶縁体に使われる碍子を主体とする電気用磁器の生産が始まります。本郷の焼



▶ 本郷の電気用磁器

物は岩越線の若松駅が開業したことにより会津以外にも販路が拡大し生産が伸び、明治末には飲食器から電気用磁器に生産の主力が転換しますが、大正五年に本郷で大火が発生し職人が他県へ流出したことや関東大震災で取引があった東京の問屋が倒産するなどで打撃を受けます。本郷町では産地の立て直しに取り組みますが、馬車で若松駅まで製品を運ぶ際、積雪期には本郷から若松駅まで運ぶ運賃が、若松駅から東京まで鉄道で運ぶ運賃よりも高くなることもあったといい、本郷への鉄道開通を待ち望んでいました。

本郷町では停車場期成会が会津線の駅を町に近い場所に設置してほしいと陳情していましたが、駅は本郷町に隣接する川南村に設置することになり、駅名は会津本郷駅とすることになりました。会津本郷駅から既存の道路までは新しい道路が造られ、新しい道路にはソメイヨシノが植樹されました。ソメイヨシノの桜並木は昭和四十年に県営圃場整備事業ですべて切り倒されました。

③会津高田駅

会津高田駅が設置された高田町は大沼郡役所があり、大沼郡の中心地でした。行政制度としての郡制は大正十二年に廃止されましたが、残務処理のため郡役所は大正十五年まで存置されていました。高田町には多くの人が集まるので、宿屋や料理屋も多く、興行所もありました。大正十三年から昭和三年にかけては芸妓の人数は五十人と最も多くなっている時期でした。

会津線が開通した大正十五年には高田町の町役場の新築と小学校の改築も行われたので、十一月に役場新築、小学校改築、鉄道開通の三つの事業を祝う大祝賀式典が挙行されました。

会津高田駅からは木材や木炭、会津みしらず柿等が出荷されま

津農林高等学校)の南側に設けられました。会津農林学校はそれまで生徒定員が一年年五十人、全体で百五十人でしたが、大正十五年三月に一年年百人、全体で三百人となります。これは会津線の開通を見越して生徒定員を倍増したものとみられます。

(2)会津柳津駅まで開通

会津線は柳津方面へ至る路線と、田島方面へ至る路線との二つがあったので、会津坂下駅までの区間が開通すると、次は田島方面の開通を目指して工事が進みます。

昭和二年十一月一日には西若松から上三寄間が開通し、西若松駅と上三寄駅の間には門田駅が設けられました。上三寄駅は現在の芦ノ牧温泉駅です。

上三寄駅までが開通すると次は柳津方面となり、昭和三年十一月二十日に会津坂下駅から会津柳津駅間が開通、塔寺駅、会津坂本駅、会津柳津駅が開業しました。

柳津では圓藏寺の住職であった沖津堪宗らが鉄道建設運動に関わっており、柳津への鉄道開通に大きな期待が寄せられていました。

圓藏寺では大正十四年に現在の仁王門が完成しており、翌年には虚空蔵堂の舞台と欄干の修繕が行われています。只見川に架かる吊り橋の観月橋は、鉄道開通の直前である昭和三年十月に新しく架け替えられました。

柳津まで鉄道が開通した十一月二十日には若松の公会堂で祝賀会が開



▲観月橋から見た虚空蔵堂

した。木材や木炭は博士山などから運ばれており、大正時代から戦前までは昭和村から尾岐村(現在の会津美里町)の下谷地へ木材や木炭を運搬する博士山森林鉄道も使われていました。これは機関車が走っていたわけではなく牛や馬が動力でした。

④新鶴駅

新鶴村の新鶴駅は、新屋敷集落にあった新鶴村役場からまっすぐ前に当たる場所に設けられました。大沼郡の村のうち、大正時代には新鶴村が米などの生産量が最も多く、新鶴駅前には米などを取り扱う事務所や倉庫が建てられました。また、駅ができることにより飲食店や材木店、劇場などもでき、駅前に新しい集落ができていきました。

⑤会津坂下駅

終点となる会津坂下駅がある坂下町は河沼郡役所があり、河沼郡の中心となっていました。磐越西線が坂下町を通らなかつたことから、坂下町では大正五年に軽便鉄道が計画されるなど鉄道が坂下町に来ることを待ち望んでいたもので、会津線が開通した時には町で提灯行列をするなど盛大に祝いました。坂下町への鉄道開通の喜びを今に伝えるのが諏訪神社の石鳥居で、この石鳥居は会津線の開通式当日に竣工したものです。

会津坂下駅は坂下町の南にある福島県立会津農林学校(現在の県立会



▲坂下町諏訪神社の石鳥居

かれ、翌二十一日に柳津の圓藏寺で鉄道開通式、柳津小学校で祝賀会が開催されました。

会津柳津駅が開業すると駅の周辺には鉄道官舎ができ、運送業者、木材業者、旅館、商店、飲食店などもできていきます。会津柳津駅がある場所は、駅ができる前は何もない場所でしたが、駅が開業したことにより様々な業者や店などができていき、駅前に新しく大平町が形成されていきます。

昭和七年からは柳津で「霊まつり」が始まり、翌年には西山温泉がある砂子原へバスの運行も始まります。西山温泉からは柳津村の出倉集落まで温泉の引湯も行われ、柳津が観光地としても整備されていきます。

会津線の開通により、陶磁器、材木、木炭、みしらず柿、会津盆地の米などが各駅から出荷されるようになり、柳津の圓藏寺への参詣者も鉄道を利用して柳津へ行くようになりました。

(3)田島への延伸と沿線的生活

①湯野上駅までの開通

会津線は昭和三年に柳津方面は完成します。柳津方面が完成すると次は田島方面の工事が進んでいきます。

田島方面の鉄道が通る阿賀川沿いは険しい場所が多く、トンネルや鉄橋も必要であったことから建設に時間がかかり、昭和七年十一月二十二日に上三寄駅から湯野上駅(現在の湯野上温泉駅)間が開通します。上三寄駅から湯野上駅の間には桑原駅が設けられましたが、この区間は後に大川ダムの建設に伴い付け替えとなり、桑原駅は移転し現在の芦ノ牧温泉駅となっています。元々の桑原駅があった場所は現在は大川ダム湖に沈んでいます。

②ガソリンカーの導入と新駅の設定

鉄道省では昭和五年に蒸気機関車より経費が安く能率的な運行ができるガソリンカーを導入します。ガソリンカーはガソリンエンジンで走行する気動車で、会津線でも昭和九年十一月から旅客輸送にガソリンカーが使われるようになります。これに伴い、ガソリンカーのみが停車する駅として、会津若松駅と西若松駅の間に七日町駅、会津高田駅と新鶴駅の間に根岸駅、新鶴駅と会津坂下駅の間に若宮駅が新設されます。

七日町駅がある七日町は越後街道沿いにあり若松の繁華街でしたが、会津若松駅と西若松駅の間にある駅はありませんでした。地元の人たちは七日町にも駅を設置するよう陳情し、ガソリンカーの導入に伴い旅客のみが利用できる駅として七日町駅が設けられました。

根岸駅は会津三十三観音の札所の一つ、中田観音として知られる弘安寺の近くにあり、弘安寺への参詣者の便宜を図るために設けられたと思われます。

若宮駅の周辺は繁華街や寺院等はありませんが、若宮駅があるのは新鶴村と坂下町の間にある若宮村になります。恐らく若宮村から自分たちの村にも駅を設置してほしいという要望があり、若宮駅が設置されたのだと思われます。

③会津田島駅までの開通

会津線は昭和九年十二月二十七日に会津田島駅まで開通し、当初の予定であった柳津、田島双方の路線が完成します。会津田島駅まで開通したことにより、弥五島駅、楢原駅、現在の会津下郷駅、会津長野野駅、会津田島駅が開業します。

田島までの路線が開通したことにより、南会津郡の豊富な森林

眺めていることが多かったようです。

3. 戦争の拡大と柳津・小出間の一部開通

(1) 会津柳津駅から会津宮下駅まで開通

会津線の建設は柳津方面と田島方面とで交互になされてきましたが、会津田島駅まで鉄道が開通すると、次は柳津から小出間の建設に入ります。

柳津から小出間のうち、最初は柳津から川口間と、小出から只見間を開通させる予定で工事が始まります。柳津から宮下までの区間は昭和十年、宮下から沼沢までの区間は昭和十一年に起工します。鉄道省は輸送上の特性に応じて線路種別を甲乙丙の三種類に分けており、柳津までの鉄道は丙線の規格で建設されていました。柳津から先は丙線よりも低規格の簡易線として建設されましたが、路線の規格は丙線並みで構造物の強度と営業設備が簡易線並みとされました。

昭和十二年に日中戦争が始まったことにより、新しい鉄道の建設費には制約がかかり、昭和十三年以後は新線は中止か繰り延べになります。そうした中、宮下では只見川を利用した発電所の建設が計画されていました。

宮下は水力発電の有力開発地として調査がなされていました。戦争が拡大する中、軍需物資等の増産のためには電力の増強が必要だったため、この頃の電力供給を担っていた日本発送電株式会社は宮下の測量や発電所の設計を行います。

会津柳津から会津宮下間が開通したのは昭和十六年十月二十八日ですが、翌月の十一月から宮下ダムと発電所の工事が始まります。会津線と宮下発電所の建設計画との関係については不明な

資源の開発が本格化し、会津田島駅からは木材や木炭が大量に出荷されるようになります。鉄道により南会津郡の木材などは全国へ販路が拡大していくことになりました。

会津線は柳津方面と田島方面の二方向があるので、方向によって柳津線や田島線と呼び区別をしていました。柳津線は宮下へ延伸すると「宮下線」、川口へ延伸すると「川口線」と呼ばれるようになり、田島線は滝ノ原へ延伸すると「滝ノ原線」と呼ばれるようになっていきます。

④沿線の産業と生活

会津線の駅からは米や木材、木炭などが多く出荷されました。多くの駅で昭和十一年が発送貨物の最大値を示しています。昭和十二年には簡易線での運用に適した小型軽量の新型蒸気機関車であるC12が会津線に七両投入されます。

旅客輸送では柳津の圓藏寺の参詣や、数えて十三歳の子供が圓藏寺の虚空藏堂にお参りする十三講詣りが鉄道を利用するようになりました。高田の伊佐須美神社の御田植祭には、祭に合わせて臨時列車も出るようになりました。

会津坂下町出身の演歌歌手である春日八郎はこの頃に会津線で通学をしていました。春日八郎は昭和十二年に旧制会津中学校（現在の会津高等学校）に入学し、自宅がある塔寺から会津若松まで会津線に乗って通っていました。通学の時は客車の中に入らず、デッキに立って外の風景や磐梯山を



▲会津坂下駅前の春日八郎銅像

部分が多いですが、柳津から川口間の建設が始まってから宮下発電所の建設の準備が進んできたようで、会津宮下駅が開業すると宮下発電所の建設工事が始まります。駅の開業の翌月から発電所工事が始まっていることからすると、会津柳津駅から会津宮下駅までの開通は宮下発電所の建設も目的の一つとなっていたと思われます。

会津柳津駅から会津宮下駅の間には、郷戸駅、滝谷駅、会津松原駅、会津西方駅、会津宮下駅が開業します。

①滝谷駅

滝谷駅は駅名は滝谷ですが、西川村外二ヶ村組合村（現在の三島町）の滝谷集落からは離れた場所にある、西山村（現在の柳津町）の中野に駅が設けられました。西山村は、国有林の民有林への払い下げがあったことにより公有林や民有林が拡大しており、滝谷駅からは杉、桐、木炭などが多く出荷されました。また、西山村には硫黄鉱山があり、昭和十三年頃から硫黄を肥料として使うために採掘されていました。滝谷駅の開業により西山村の硫黄は滝谷駅から関東、新潟、山形などへ出荷されるようになりますが、昭和二十年に鉱山は休止します。その後も短期間の操業はありましたが、継続的な操業はありませんでした。

②会津松原駅

会津松原駅がある松原集落は只見川沿いにある集落ですが、隣の集落とは山を越えないと行き来ができませんでした。鉄道が集落を通ることになったので、松原集落では駅を設置してくれるよう請願をしています。請願では積雪期には交通が困難であり、通学や郵便などに支障をきたすため駅の設置を要望しています。

③会津西方駅

会津西方駅がある西方集落からは、西会津町の野沢へ行く道があり古くから利用されてきました。会津線が西方に来るまでは只見川西部の人たちは西方を経由して野沢へ行き、磐越西線を利用していましたが、鉄道が宮下まで開通すると現在の金山町や只見町などの人たちは会津宮下駅を利用するようになり、西方から野沢へ行く道は使われなくなっています。

④会津宮下駅

会津宮下駅が開業すると、宮下ダムと発電所の建設のため多くの労働者や物資が宮下へ集まるようになります。しかしながら、会津宮下駅が開業した二か月後の昭和十六年十二月にはハワイ真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まり、戦争の拡大で物資や労働力の不足が顕著になっていきます。昭和十七年には宮下で大火が発生し多くの家が焼失しますが、大火からの復興と鉄道開通や発電所の建設工事による人の流入により、宮下集落は農村から商家の街並みに変わっていきました。

只見川に発電用ダムが建設されたことにより、川を使って木材を流送する筏流しも終わります。木材の輸送手段として只見川は利用されてきましたが、川は水力発電をするために使われるようになり、木材の輸送は鉄道が担うようになります。



▶宮下ダム

②入広瀬村の駅と信号場

鉾山がある入広瀬村では、入広瀬駅の設置場所について大栃山集落と穴沢集落の両方から自分の村に駅を設置してほしいという請願が出ていました。最終的に駅の位置は鉄道省の決定に従うと取り決められ、大栃山に入広瀬駅ができました。

入広瀬駅と大白川駅の間には「一ッ橋信号場」が設けられました。「一ッ橋信号場」は駅ではなく、珪石を採掘する一ッ橋鉾山から珪石を運び込むために設けられた施設です。一ッ橋鉾山は、日本製鐵株式会社の子会社である日鉄鉾山製鐵株式会社が昭和十六年に買収しており、昭和十七年に入広瀬採石場を開設して珪石の採掘に当たっていました。鉾山からは索道で珪石を一ッ橋信号場に運び、一ッ橋信号場で貨車に積み込み、大白川駅で客車と貨車を連結して小出駅へ運び、上越線などで北九州の八幡製鉄所などへ輸送していました。

会津宮下までは会津線の柳津からの延伸なので会津線でしたが、小出から大白川間は当初は小出から只見までを開通させる予定だったので「只見線」とされました。この後も全線開通するまで会津の路線は「会津線」の一部であり、小出から大白川の区間が「只見線」でした。

③戦争の拡大と鉄道の開通

柳津から小出間は拡大する戦争に対応するための電力増強、軍需物資である鉄鋼増産のための珪石輸送を主な目的として、それぞれ柳津から宮下、小出から大白川までが開通しています。日中戦争から太平洋戦争にかけての戦争の拡大が鉄道開通の大きな要因となっているとみられます。

また、駅は沿線地域から戦地へ出征する兵士たちが家族や地元

②小出駅から大白川駅までの開通

①小出駅から大白川駅まで開通

柳津から小出間のうち、小出側は小出から只見間を開通させる予定で工事が始まり、昭和十年に小出から大白川間、昭和十一年に大白川から県境に近い毛猛（六十里越トンネルの地点）までの区間が起工します。県境を越えた田子倉には鉄道建設用の官舎も設けられました。

しかし、昭和十二年に日中戦争が勃発したことにより、新しい鉄道の建設は休止となってしまいます。この時にはすでに、大白川の前まで道床や橋脚はできており、細野鉄橋まで線路は敷かれていました。

小出側の鉄道工事は日中戦争の勃発とともに中断されていましたが、戦争が拡大していく中で軍需物資の増産が必要となり、そのための資材開発の鉄道が検討されるようになります。鉄道が通る予定地であった入広瀬村には溶鉱炉や製鉄所で使用される耐火煉瓦の材料となる珪石の鉾山がありました。軍需物資として重要な鉄鋼を増産するためには耐火煉瓦も必要であり、そのために建設が止まっていた鉄道を開通させ、鉄道により入広瀬村の珪石を運搬することになります。

戦争遂行のために必要な珪石を運び出すために小出から大白川間の鉄道工事は再開し、昭和十七年十一月一日に小出駅から大白川駅までの区間が開通しました。開通祝賀会は沿線町村の関係者ら約五百人が参加し、小出小学校で盛大に挙行されました。

開通時の駅は小出駅、越後広瀬駅、越後須原駅、入広瀬駅、大白川駅で、大白川駅が終点でした。

の人たちと別れる場所でもありました。

このように、会津線の延伸、只見線の開通は戦争の拡大と深く関わっており、この頃の社会情勢を表す出来事でもあります。

4. 戦後の復興と産業

①会津滝ノ原駅までの開通

田島から今市までの区間は改正鉄道敷設法で予定線とされていましたが、開通するのは第二次大戦後となります。

昭和二十二年九月、開通済みであった檜原駅と会津長野野駅の間に会津落合駅（現在の養鱒公園駅）が新設されます。次いで同年十二月十二日に会津田島駅から荒海駅（現在の会津荒海駅）までの区間が開通し、中荒井駅、荒海駅が開業します。

昭和二十六年には会津長野野駅と会津田島駅の間に田部原駅（現在の田島高校前駅）が新設されます。

昭和二十八年十一月八日に荒海駅から会津滝ノ原駅（現在の会津高原尾瀬口駅）が開通し、糸沢駅（現在の七ヶ岳登山口駅）、会津滝ノ原駅が開業します。昭和六十一年に栃木県からの野岩鉄道が開通するまで会津滝ノ原駅が会津線の一方の終点でした。

②会津宮下駅から会津川口駅まで開通

①只見川の電源開発

第二次大戦が終わると日本では食料増産による国民生活の安定や、電力供給の増大による産業発展、自然災害から生命・財産を守ることを目的に昭和二十五年に国土総合開発法が制定されます。これに基づき水資源の活用や資源開発などのため全国二十十一か所が特定地域に指定され、只見川流域では大規模な水力開

発が行われることとなります。

只見川は水量が豊富で河川の勾配が急なことから水力発電の適地とされており、日本発送電株式会社などにより調査がなされていた。日本発送電株式会社は昭和二十六年の電気事業再編成で解体し、新しく東北電力株式会社などの電気事業者が発足します。

東北電力株式会社により只見川には昭和二十六年から二十八年にかけて片門ダム・片門発電所と柳津ダム・柳津発電所、昭和二十七年から二十九年にかけて上田ダム・上田発電所と本名ダム・本名発電所が建設されます。

会津線の郷戸駅は柳津ダム・柳津発電所の近くにあり、発電所工事のために貨物取扱が行われていました。

会津柳津から会津宮下間は昭和十六年に開通していますが、当初は会津柳津から会津川口間を開通させる計画だったため、会津宮下駅が開業した時点で会津宮下から会津川口間もある程度工事が進んでいました。

会津宮下から会津川口間の工事は昭和二十七年に再開します。上田ダム・上田発電所と本名ダム・本名発電所は建設現場が会津宮下駅よりも先にあるため、会津宮下から会津川口間は営業運転の開始前ですが、上田ダム・上田発電所と本名ダム・本名発電所の建設資材運搬のために使われていました。上田ダム・上田発電所の近くにある会津中川駅は、駅の開業は昭和三十一年ですが、貨物ホームは昭和二十八年に設けられています。

②只見川を特徴づける風景の形成

東北電力株式会社によって只見川に複数の発電専用ダムが建設されたことにより、只見川の風景は大きく変化しました。ダム

す。ダムができたことで周囲の景色や只見線の鉄橋などが水面に映るようになったと考えられます。

只見線の線路は只見川に沿って建設されており、列車の車窓からは川幅が広く水の動きがあまりない只見川が見られます。只見川沿いの風景はずっと昔から続いているものではなく、昭和二十年代のダム建設によって作り出された風景なのだと思います。

③会津川口駅までの開通

当初の計画では会津柳津駅から先は会津川口までを開通させる予定でしたが、会津宮下駅までは昭和十六年に先に開通しました。会津宮下から会津川口間は昭和三十一年九月二十日に開通します。これは今年（二〇二六年）からちょうど七十年前となります。

会津川口駅までの区間が開通したことにより、早戸駅、会津水沼駅、会津中川駅、会津川口駅が開業します。

早戸駅の只見川をはさんだ対岸には沼沢鉱山がありました。沼沢鉱山では昭和十七年から褐鉄鋼が採掘されており、鉱物は索道で早戸に送り、トラックで会津西方駅へ運んでいましたが、昭和二十五年に休山します。

昭和二十八年からは玉造硫黄鉱業株式会社により硫黄の採掘が行われ、早戸駅の開業後は只見川の上を索道で渡し、早戸駅から出荷していました。沼沢鉱山があった三更（みふけ）では地面の陥没が発生しており、昭和三十三年に鉱山の操業が終わった後も昭和三十七年に陥没が発生します。危険を感じて三更から移転する人もおり、昭和三十九年には大規模な山崩れが発生したため残りの住民も移転し、集落があった場所は無人となります。かつての三更集落へは、現在は「霧幻峡の渡し」で行くことができます。



▶只見川に映る第一只見川橋梁

ができる前の只見川では漁労や川を使って木材を運ぶ筏流しが行われており、現在よりも川幅は狭く、河原や浅瀬があり、水の流れがありました。

ダムが建設されると川の水が堰き止められるので川の水位が上がり、水の流れがなくなります。同時に河原や浅瀬もなくなります。それまでよりも川幅が広くなり水位が高くなり水深が深くなります。

第一只見川橋梁など只見川に架かる鉄橋は只見線写真の被写体として代表的なものです。写真では鉄橋や周囲の木々などが只見川の水面に映る様子を撮影することが多くあります。鉄橋や周囲の木々などが只見川の水面に映るのは、ダムができたことにより水の流れがなくなり、水位が上がったことで浅瀬や岩などが水面から消え、川幅が広がったことで河原がなくなったからで

会津川口駅が開業したことで、只見町や昭和村方面の木材がトラックで会津川口駅へ集まるようになり、会津川口駅から貨物列車で出荷されるようになります。会津川口駅の開業は昭和村にも大きな影響を与えました。昭和村の道路は田島へ通じる舟鼻峠や高田へ通じる博士峠が重要でしたが、会津線が会津宮下駅まで開通すると昭和村から宮下へ行く美女峠が重要となり、会津線が会津川口駅まで開通すると野尻川沿いに川口へ行く道が主要道路となっていくます。

（3）田子倉専用鉄道

①田子倉専用鉄道の建設

只見川の中下流部には東北電力株式会社により複数のダムと発電所が建設されましたが、上流部は電源開発株式会社が田子倉ダムなど大規模なダムと発電所を建設することになりました。

田子倉ダムと発電所を建設するにあたり、電源開発株式会社は昭和二十八年に田子倉建設所を開設します。田子倉ダムと発電所建設のための工事用資材の輸送は、総量が四十五万三千トン、そのうちセメントが四十万トンで、セメントの産地とダム建設地点を結ぶ輸送体制の確立が必要でした。

輸送は会津宮下駅から田子倉と、会津田島駅から田子倉の二つのルートが検討されましたが、会津宮下駅からは会津川口駅まで鉄道が延長する予定だったので会津宮下駅からのルート为主要輸送路に決定します。輸送は一般のトラックやバスの往来する道路を改修するよりも、会津川口駅から田子倉まで専用鉄道を建設する方が有利で、鉄道敷設に関する地元の運動もあることから、会津川口駅から田子倉発電所の建設現場まで資材運搬のための専用鉄道を建設することになります。



田子倉ダム・発電所の建設にあたっては田子倉集落の住民の移転が必要であったため、昭和二十九年から三十一年にかけて補償交渉が行われました。

昭和三十一年には、田子倉専用鉄道は田子倉ダムと発電所が完成した後は国鉄に編入するよう閣議決定され、同年五月から専用鉄道の建設が始まりました。

ダムのコンクリート打込み（硬化前の液状コンクリートを型枠内に流し込む作業）の前には予めケーブルクレーンなどの設備を組み立てておく必要があるため、それらの設備の資材は専用鉄道が完成する前に建設現場まで運ばねばなりません。

ところが七月に豪雨災害が発生し、会津線や道路は各所で寸断されてしまいました。

会津線の会津宮下駅までの区間は豪雨により被害を受けたので、会津宮下駅までの区間が復旧するまでは会津田島駅から田子倉の建設現場へトラックで資材を運ぶことになりました。

豪雨災害により被害を受けた箇所が復旧し、九月に会津川口駅が開業すると、専用鉄道の建設と並行して、会津川口駅からトラックで田子倉への資材運搬が始まります。ダムのコンクリート打込みは十一月から始まりますが、この時点ではまだ専用鉄道は完成していませんでした。

② 田子倉専用鉄道の開通

田子倉専用鉄道が開通したのは昭和三十二年七月二十日で、当初の開通予定だった十二月よりも四カ月近く早い開通でした。一年と数か月という非常に短い期間で完成させているため、専用鉄道の鉄橋やレールは飯田線などからの転用が多くなっています。

特に第八只見川橋梁は、電源開発株式会社天竜川に佐久間ダムを建設したことに伴い飯田線が付け替えとなったことから、廃線となった飯田線の区間にあった鉄橋を転用したものです。佐久間ダム建設のために不要となった鉄橋を田子倉ダム建設のために再利用したことになります。

田子倉専用鉄道は終点の田子倉にのみ停車場が設けられていました。田子倉停車場は現在、田子倉発電所がある位置の下流にあり、六番線まである構内に転車台のある四線の機関庫もありました。五千トンのセメントサイロなどもあり、専用鉄道の開通後は多くの資材が搬送されました。

会津川口駅から田子倉停車場までの間には、列車の行き違いのために西谷信号場と会津横田信号場が設けられただけで、駅はありませんでした。資材運搬のための専用鉄道なので客車もなく、一般の人が利用することはありませんでした。

田子倉専用鉄道の開通により田子倉ダムと発電所の建設工事は本格化していき、昭和三十三年には田子倉ダムの建設現場で一日当たりのコンクリート打込み量の世界最大を記録します。只見には多くの労働者が流入し、それらの人たちを客とする飲食店や映画館などの娯楽施設もありました。

（４）会津盆地の状況

が普及した主因だと考えられます。

② 会津本郷駅

阿賀川では砂利の採取が行われており、阿賀川の砂利は会津本郷駅から出荷されてきました。阿賀川の砂利採取がいつから行われていたのかはわかりませんが、会津本郷駅から阿賀川までは砂利を駅まで運ぶための引き込み線もありました。昭和三十一年頃には会津本郷駅では年間千トンの砂利を取り扱っていました。

③ 新鶴駅

昭和二十四年頃、貨物や乗客が少なくなった新鶴駅を縮小する計画が起きます。新鶴村をはじめ、近隣の若宮村、荒井村、館ノ内村は、新鶴駅は米と木材の積み出しが多いとして仙台鉄道管理局に陳情し、駅の縮小計画は食い止められました。昭和二十五年には塔寺駅と会津坂本駅の縮小計画も起きますが、八幡村議会は反対決議を行っていました。

昭和三十三年度の新鶴駅の乗降客は総計二十三万四千人以上、貨物の積み出しは米が二千九百九十六トンで、木材、枕木、大麦なども出荷されていました。

（５）小出から大白川の状況

① 戦後の状況と新しい駅の設置

第二次大戦が終わると、戦地からの復員や満州などからの引き揚げがあり、別れの場所であった駅は家族や地元の人たちとの再会の場所となりました。戦後の物資不足の中では減便や貨車での旅客輸送なども行われていました。

只見線では昭和二十六年に小出駅と越後広瀬駅の間に薮神、越

① 七日町駅

太平洋戦争末期の昭和二十年五月、本土空襲の激増によりガソリンカーの運行は全面休止となります。会津線でもガソリンカーのみが停車する七日町駅と若宮駅は六月から休止となります。

七日町駅と若宮駅は一年後の昭和二十一年六月に営業を再開しますが、駅はガソリンカーが停車する設備だけしかなく、蒸気機関車が引く客車は全体が長くなるので停車できないままでした。そこで、昭和二十二年には地元の人たちにより七日町駅新設期成同盟会が結成され、七日町駅を普通駅とする請願などがなされます。その結果、新しい駅舎建設のため地元から六十三万円、近村から三十万円が寄付されます。若松市は五十万円を負担して昭和二十三年十二月に新しい七日町駅が建設され、七日町駅は普通駅となりました。



七日町駅開設記念碑

昭和三十年には全国的に非常に人気の高かったプロレスラーの力道山が、七日町駅の近くにある精肉店「肉の庄治郎」を訪れています。力道山は市営球場の特設リングで行われた会津で初めてとなるプロレスの試合に出場するため若松に来ていました。試合の後に「肉の庄治郎」を訪れ生の馬肉を食べて見せたといわれていますが、恐らく七日町駅から汽車に乗って次の試合会場へ行くこととしていた時の出来事だったのではないかと思います。これが会津での馬刺しの始まりといわれることがありますが、昭和三十一年代に農業機械の急速な普及で大量の馬が不要となったことや、冷凍冷蔵技術や食品流通システムの発達などが会津で馬肉食

後広瀬駅と越後須原駅の間に魚沼田中、越後須原駅と入広瀬駅の間に上条、入広瀬駅と大白川駅の間に柿ノ木の各仮乗降場が新しく設置され、翌年に数神、魚沼田中、上条は駅に昇格しました。

② 鉱山開発

戦時中から珪石の採掘が行われていた一ツ橋鉱山は、戦後になると条件が悪化し昭和二十九年に閉山します。それに伴い一ツ橋信号場も昭和二十九年に廃止されました。

一ツ橋鉱山に代わって、大白川駅よりも奥地にある「こつたが山」が昭和二十九年から珪石の採掘現場となります。「こつたが山」の採掘現場から大白川駅までは索道が建設され、採掘された珪石は索道で大白川駅まで送られていき、只見線の貨物で運ばれました。

「こつたが山」では露天掘りと坑内掘りが行われていましたが、冬は雪で現場に行くことができないので十一月下旬から五月上旬は採掘を停止していました。そのため他の鉱山と比べると採掘できる期間が短く、製鉄用の炉材が変化して珪石を使った煉瓦の需要が減っていったこともあり、「こつたが山」の鉱山は昭和三十六年に閉山しました。

③ 水力開発

国土総合開発法による只見特定地域総合開発計画は、只見川に複数のダムと発電所を建設して大規模な電源開発を行うものでしたが、只見川上流部には田子倉ダムと奥只見ダムなどが建設されることになりました。

田子倉ダムは会津川口駅から専用鉄道を建設して資材運搬にあたりましたが、奥只見ダムは小出から建設資材の運搬が行われ

しと運搬には五味沢森林鉄道が利用され、森林鉄道の貯木場から大白川駅まではトラックで木材を輸送していました。五味沢森林鉄道は昭和三十六年に廃止されましたが、新潟県内に起点と終点がある唯一の森林鉄道でした。

土木建築工事の活発化や紙パルプの大幅な生産増加などにより、昭和三十五年末から原木価格が著しく高騰し、政府は木材価格安定方策として昭和三十六年に国有林の計画的増伐を決定します。それを受け北越製紙株式会社は国有林増伐に協力するため、前橋営林局の支援で昭和三十七年に国有林の伐採を主な事業とする上越開発株式会社を設立します。上越開発株式会社は大白川の国有林伐採に携わると共に、大白川にチップ工場を新設して広葉樹チップを北越製紙株式会社に納入しました。国有林で伐採された木材やチップ工場のチップは大白川駅から運び出されていました。

⑤ 砕石輸送

上越線の複線化工事が本格化していくと、昭和三十七年より線路に敷く砕石が大白川駅から運ばれるようになりました。昭和三十八年には大白川駅に砕石を積み込むための施設であるホッパーと側線も完成します。

大白川の砕石は昭和四十二年の羽越水害で被害を受けた線路の復旧や、信越線の複線化工事などにも使われました。

⑥ 沿線的生活

戦後の復興期から高度経済成長期にかけて、只見線は貨物輸送だけでなく沿線の人たちにとっても通学や通勤などになくてはならない交通機関となりました。

ました。昭和二十九年からは奥只見ダム建設の基地となる小出資材集積場へ、只見線から分岐する形で電源開発専用線が敷かれました。小出駅から小出資材集積場へは奥只見ダムと発電所建設に使用する大量の資材が届き、そこからトラックで奥只見の建設現場へと運ばれていきました。電源開発専用線は現在が道路となっています。

▶奥只見ダム



また、只見川電源開発計画の一部である入広瀬村の黒又川第一ダム、黒又川第二ダムの建設工事でも只見線を利用して大量の資材が運ばれました。黒又川第一ダムの建設現場へ資材を運ぶため、昭和二十九年には入広瀬駅と柿ノ木仮乗降場の間に黒又川仮乗降場が設置されました。

黒又川第一ダムの発電所はダムとは別の場所に設けられており、黒又川第二ダムから黒又川第一発電所までは水路トンネルで水を送っています。黒又川第一発電所は守門村の松川集落に建設されることになり、発電所を建設する資材の輸送では越後須原駅が利用されました。

④ 森林資源

只見線の沿線地域では木炭の生産が盛んに行われており、大白川駅からは木炭、越後須原駅からは白炭が多く出荷されていました。

大白川駅よりも奥の平石川上流域などは国有林が広がっており、長岡営林署が管轄していました。国有林でのブナ材の切り出

昭和三十年には一日四往復だった列車本数が一日五往復に増加します。いわゆる「団塊の世代」が高校へ進学するようになる昭和三十八年には朝夕の客車は三両から四両になり、昭和四十一年には朝夕の客車は五両となります。只見線の列車は貨車と客車を連結して運行する「混合列車」でしたが、通学や通勤、買い物、行商などで多くの人が利用しており、郵便物も運ばれていました。昭和三十年代には越後須原駅の近くには新映館、入広瀬駅の近くには只見映画劇場という映画館もあり、列車や駅は様々な人たちにぎわっていました。

冬場に雪のない地域で仕事をする出稼ぎや集団就職でも只見線は利用されており、昭和四十六年に公開された映画「男はつらいよ 奮闘編」の冒頭では越後広瀬駅で集団就職に出発する学生たちを渥美清演じる寅さんが励ますシーンが登場します。

⑦ 冬的生活と只見線

この時期には沿線に住む人たちの生活と只見線が密接に関わっていました。只見線の沿線地域は豪雪地という特徴があります。只見線は冬期間の交通手段としてなくてはならない存在で、それを象徴するのが昭和三十八年の二つの出来事です。

昭和三十七年の十一月から三十八年の二月にかけて日本海側を中心に広い範囲で大雪となりました。特に昭和三十八年の一月から二月は稀にみる大雪で、雪による災害として初めて災害救助法が適用されました。この大雪は「三八豪雪」と呼ばれています。が、「三八豪雪」では只見線の一部または全部の区間が不通になった期間が二十三日間ありました。只見線が不通になったことで沿線では食料や生活物資が不足し、自衛隊のヘリコプターで救援物資が運ばれるようになります。

只見線沿線の住民は鉄道が開通する前は秋のうちに保存食や越冬物資を貯えて冬に備えていましたが、只見線が開通すると冬でも食べ物や生活物資が鉄道で運ばれてくるようになり、保存食などは不要となってきました。そのため、只見線が長期間不通になると食べ物や薬など必要な物資が不足し、生活に支障をきたすことになってしまいました。

もう一つの大きな出来事は須原スキー場の開業です。昭和三十八年十二月に越後須原駅の近くに開業した須原スキー場は、只見線沿線で最初にできたスキー場です。

須原スキー場開業の前提として、只見線により冬の交通が確保された点が重要です。道路除雪はまだないので雪が降ると道路は通れなくなり、冬は只見線が唯一の交通機関でした。交通手段がなければスキー場を造ったとしても誰も行くことができません。只見線により冬の交通が確保されたことでスキー場も新しく開業できるようになったといえます。

須原スキー場の開業は冬の仕事場ができたということでもあり、出稼ぎに行かなくてもスキー場で働くという選択肢が生まれます。スキー場の周りには民宿も開業し、スキー場と民宿という新しい産業が只見線沿線に登場しました。

この地域では冬は只見線以外の交通機関は使えなくなる



▲須原スキー場

ため、雪の降らない地域の鉄道よりも只見線の重要度は高かったといえます。只見線は沿線の人たちの生活に必要不可欠な存在となり、豪雪地の冬の生活を大きく変えていきました。

5. 全線開通に向けて

(1) 会津川口駅から只見駅間の編入

① 田子倉発電所の完成と専用鉄道編入を巡る問題

会津川口駅の延長に建設された田子倉専用鉄道は、昭和三十一年の閣議で田子倉ダム完成後に日本国有鉄道の営業路線に編入するという条件で了解されていきました。田子倉ダムの本体は昭和三十四年に完成し、翌年には附帯工事も完了しました。工事関係資材等の運搬は終了し、田子倉専用鉄道は役目を終えます。

田子倉ダムの完成を受けて沿線の自治体は「専用鉄道国鉄編入期成同盟会」を組織、昭和三十四年から早期開業の陳情を開始します。

ところが、運輸省鉄道建設審議会が田子倉専用鉄道を国鉄に編入した場合の試算をしたところ、収支が大幅な赤字となってしまうことから国鉄は専用鉄道の引受けを一旦拒否します。沿線自治体は反発しますが、国鉄側としても大幅な赤字となることからわかつている路線を編入しては赤字が拡大するので編入できないとします。

「専用鉄道国鉄編入期成同盟会」は昭和三十五年に池田勇人首相に面会し、年度末には田子倉専用鉄道を国鉄が買収し営業路線に編入する方向が固まってきました。経済企画庁は調停案を出すなどし、福島県議会でも「田子倉専用鉄道の国鉄路線編入に関する意見書」を二回決議するなどの動きがあり、昭和三十六年の鉄道

建設審議会でも田子倉専用鉄道の三億六千万円の無利子十か年賦での買い上げが決定します。

田子倉専用鉄道は貨物輸送専用の鉄道として建設されたため、一般の人々も利用する国鉄の営業路線として開業するためには、駅舎、ホーム、信号機、保安防護施設などを新しく整備しなければならず、追加投資として六億円も必要となりました。田子倉専用鉄道は会津川口駅から田子倉停車場まで総延長が三十二・二キロメートルでしたが、このうち約二十七キロメートルが建設線となり、駅などが整備されます。

田子倉専用鉄道は国鉄の買収後に各種の追加工事が行われ、昭和三十八年八月二十日に会津川口駅から只見駅までの区間が会津線の延長として開通します。只見駅では小中学生約千百人が駅構内で小旗をふって列車を出迎えました。

会津川口駅から只見駅までの区間が営業路線として開通したことにより、新しく駅が設けられ、会津横田駅、会津蒲生駅、只見駅が開業します。田子倉専用鉄道は只見駅から田子倉ダムの建設現場まで続いていましたが、その区間は廃止されました。

② 会津横田駅

会津川口駅から只見駅までの区間が開通したことにより、金山町の横田集落には会津横田駅が設けられました。専用鉄道には会津横田信号場がありましたが、信号場があった場所と会津横田駅の場所は異なります。

横田には福島県立川口高等学校の横田分校がありましたが、横田分校は昭和三十六年に募集を停止し、三十八年に廃止されます。これにより横田に住んでいる川口高等学校の生徒は会津線などで川口の本校に通学することになります。

会津横田駅の近くには横田鉱山があり、会津横田駅の場所は鉱山からの搬出を考慮したものと思われまます。横田鉱山は昭和三十一年に日本曹達株式会社が買収して横田鉱山株式会社を設立、昭和三十四年から生産を開始していきました。会津横田駅は開業当初は旅客のみ取り扱いでしたが、昭和三十九年から専用車扱貨物の取り扱いを開始し会津線で貨物が運ばれていきました。銅鉱価格の下落により横田鉱山は昭和四十七年に休山しますが、横田には鉱山で働く人たちも多く住んでいました。

③ 只見高校の独立

只見駅は会津線の一方の終点となり、奥会津の木材などが只見駅から運ばれていきました。

只見高等学校は只見駅の開業の翌年に独立しています。現在の只見高等学校はもともと南会西部高等学校（現在の南会津高校南郷校舎）の分校でしたが、昭和三十五年に南会西部高等学校は南会津高等学校に校名を変更し、同時に只見分校は只見校舎と改称、只見校舎は全日制普通科定員五十名の募集が認可されます。只見校舎は体育館や寄宿舎が整備され、只見駅開業前の昭和三十八年四月には全日制普通科定員百二十名の募集が認可、昭和三十九年四月に福島県立只見高等学校として南会津高等学校から独立します。

この頃は人数の多い「団塊の世代」が高校へ進学する頃なので只見高等学校の生徒定員の増加は社会的な現



▲只見駅

象ですが、会津線が只見駅まで開通したことにより通学できる範囲が広がったことも学校の独立の要因の一つになっているとみられます。

④駅の新設

会津川口駅から只見駅までの区間は昭和三十八年に開通しましたが、最初は駅は三か所しかありませんでした。そのため、沿線の集落は駅の設置を国鉄に陳情し、昭和四十年二月一日に本名駅、会津越川駅、会津塩沢駅が新設されます。

これらの駅の建設費は地域住民の負担となったので、金山町では駅建設の費用の半額を関係集落に補助し、補助を受けた関係集落が国鉄へ駅の建設費を寄付するという形をとって造られました。国道から駅へ通じる道路も金山町が建設し、町道に編入しました。

⑤急行「いなわしろ」の運行

昭和四十年からは会津川口駅から仙台駅への準急「あいづ」の運行が始まります。

準急「あいづ」は昭和三十四年に仙台駅と喜多方駅間で運行を開始しましたが、昭和四十年から会津川口駅、会津田島駅、喜多方駅の三方向からの列車を会津若松駅で連結し、仙台駅へ向かう形態となります。昭和四十一年には急行に格上げされ、四十二年からは季節列車として冬季以外は只見駅まで延長します。

昭和四十三年からは上野駅から会津若松駅間の特急が「あいづ」となり、会津線や喜多方駅から仙台へ向かう急行は「いなわしろ」と名前が変更され、昭和五十七年まで運行されました。

へ繰り入れられ、未開通区間は、「只見中線」と名付けられ建設が決まりました。昭和三十八年の只見駅の開業後には建設に向けた調査が始まります。

②只見から大白川間の工事

現在の只見線のうち、只見から大白川までの区間は福島県と新潟県の県境部にあたり、険しい山々が連なっています。昭和十年に小出から只見間の工事が始まった際には、大白川から県境の毛猛までの区間の工事も行われており、大白川駅から六十里越トンネルの新潟県側地点までの工事はある程度進んでいました。

小出から只見間の工事が始まった時点ではまだ田子倉ダムはなかったため、福島県側の線路は田子倉を通ることを予定していました。その後、田子倉ダムが建設されたので線路が通る予定だった場所は結果的に湖底となってしまいました。

そこで、大白川駅から北にある大白川の集落や五味沢を通り、平石川（破間川の上流）に沿って鉄道を建設し、浅草岳の下をトンネルで抜けて只見駅へつなぐという新しい経路も検討されます。しかし、この案は新たに測量調査が必要となりトンネルも長くなるため、技術面や経費、工期などで問題がありました。

大白川から只見間は従来通り末沢川に沿って鉄道を建設し、六十里越トンネルで只見沢へ出るルートが採用されます。只見沢には田子倉駅を設け、田子倉駅からは田子倉トンネ



▲六十里越トンネル只見側

(2)只見駅から大白川駅間の開通

①全線開通に向けた運動

全線開通に向けた動きとしては、昭和二十二年に只見線全通と只見川水系の電源開発を進めるための「小出郷開発振興会」が設立されます。昭和二十七年には只見で「鉄道只見線全通促進地元民大会」が開催され、昭和二十八年には南北魚沼郡の町村、古志郡、栃尾、長岡市などにより「小出只見線全通期成同盟会」が組織されます。

只見線に関して常にクローズアップされるのが赤字問題です。只見線は新潟鉄道管理局管内で最大の赤字路線で、会津線も沿線人口の少なさや只見川の水力開発が終わった後は大きな産業がないことなどが課題となっていました。地元では只見線を全通させ盲腸線状態を解消することで赤字を軽減することができるとして、全通に向けた運動が続いていました。

そこで登場したのが、国土の均衡ある発展を掲げ都市部と地方との格差解消を目指した田中角栄です。田中角栄は地方の産業立地の不利を交通網の整備により補い、地方への工業立地を進めることで都市部の過密人口を分散させるという発想から、新幹線をはじめとする日本の交通網整備を押し進めようとしています。

会津線が会津川口駅まで開通した昭和三十一年には、「小出只見線全通期成同盟会」の会長に田中角栄が就任します。田子倉専用鉄道が役割を終える昭和三十四年には、福島県と新潟県とで足並みをそろえるため、「小出只見線全通期成同盟会」に南会津郡と大沼郡の町村も加わり、只見町長や金山町長も副会長となり全線開通へ向け取り組んでいきます。

様々な取り組みの結果、田子倉専用鉄道の国鉄編入が決まった翌年の昭和三十七年に只見から大白川間が鉄道審議会で着工線ルで只見駅までつなぐことになりました。

只見駅から大白川駅までの「只見中線」は昭和四十年から工事が始まります。工事は新しい鉄道路線の建設を目的とする鉄道建設公団により進められ、昭和四十一年から六十里越トンネルの工事が始まります。六十里越トンネル建設は難工事でしたが、昭和四十六年に竣工、完成時は日本で七番目に長いトンネルでした。

この間、国鉄の赤字問題に関連して昭和四十三年に只見線や会津線は「使命を終えた」赤字八十三線に選定されますが、未開通区間は予定通り建設され廃線は免れます。

③只見線的全線開通

鉄道工事がすべて終わり、只見線が全線開通したのは昭和四十六年八月二十九日でした。大白川から只見間には田子倉駅も新設されました。

開通日には小出駅で田中角栄らが出席したテープカットが行われ、祝賀列車が運行されました。沿線の駅はちょうちん等で飾りつけられ、列車が来ると旗を振ってお祝いしました。

只見から大白川までの区間が開通したことにより、会津若松駅から只見駅までの区間は「会津線」から分離し、「只見線」へ統合されました。現在の只見線の誕生です。これにより、会津線は西若松駅から会津滝ノ原駅までの区間だけとなります。

全線開通後には沿線各地の農協や村から特別列車を仕立てての会津若



▲田子倉駅

松への観光ツアーが盛んに行われ、会津若松では白虎隊の詩吟などで歓迎しました。只見線の全線開通により、昭和四十七年、四十八年には只見町の観光客の入込数は二割増加したといわれます。

只見町では昭和四十七年から四十九年にかけて河井継之助記念館、只見保養センター（ひとつぶろまち湯）、田子倉ダム展望台レストハウス、只見青少年旅行村が次々とオープンします。

只見線が全線開通したことで、新潟県の沿線から只見高校に入学する人もいました。只見高校は過疎化の影響で入学希望者が定員を下回っていましたが、只見線が全線開通したことにより昭和四十七年には新潟県の只見線沿線から二十三名の入学申し込みがありました。九十名の定員に対し、全体で九十六名の応募となりました。

④沿線のスキー場の開設

昭和四十六年に只見線が全線開通すると、沿線でスキー場の開業が相次ぎます。

◀只見スキー場



昭和四十七年には守門村と広神村の関係者らにより権現堂観光開発株式会社が設立され、同年十二月に魚沼田中駅から一キロほど離れた場所に権現堂スキー場が開業します。（現在は閉鎖）

昭和四十七年十二月にはリゾート開発会社の太平洋クラブにより、大白川に隣接国際大原スキー場が開業します。（現在は閉鎖）

只見スキー場も昭和四十七年十二

月に開業しています。翌昭和四十八年二月には、第一回「ふるさとの雪まつり」が開催され、只見町は冬の観光客誘致を図っていました。

金山町では昭和四十七年、四十八年に横田鉱山やその近くにあった田代鉱山が閉山し、町では新しい産業として工場の誘致や観光開発を模索していました。昭和四十八年十二月には大日本紙器株式会社が小栗山に奥只見国際スキー場（現在のフェアリーランドかねやまスキー場）を開設します。スキー場の開業により、川口、小栗山、八町、玉梨などには民宿も開業します。

奥只見国際スキー場の最初のシーズンには昭和天皇の弟にあたる高松宮殿下も訪れています。高松宮殿下は乗馬やゴルフ、スキーなどのスポーツに親しんでおり、冬になると全国のスキー場や雪山でスキーをしていました。

昭和四十九年三月に高松宮殿下は新潟県の石打丸山スキー場を訪れた後、翌日に大白川の関越国際スキー場でスキーをし、大白川駅から只見駅まで只見線に乗り、只見駅からは迎えの自動車で玉梨温泉へ行っています。その翌日に奥只見国際スキー場でスキーを楽しみ、会津川口駅から会津若松駅まで只見線に乗り、自動車で会津若松から磐梯熱海へ行っています。

高松宮殿下は只見線で新潟県から福島県へ行き、スキーを楽しんでいます。全線開通した只見線を利用してスキー場へ行った例といえます。

6. 交通体系の変化と鉄道

（１）国鉄時代

①国鉄の動力近代化計画と蒸気機関車の廃止

国鉄は昭和三十五年から蒸気機関車を計画的に廃止して電車

や気動車に置き換えていく、動力近代化計画を進めていきました。蒸気機関車の置き換えは幹線から始まったので、会津線や只見線は本州では最後まで蒸気機関車が残る路線の一つとなりました。

只見線では昭和四十四年にディーゼル機関車が導入されますが、客車の暖房のため昭和四十四年十一月から翌年三月、昭和四十五年十一月から翌年四月は蒸気機関車が運行しました。全線開通を控える昭和四十六年四月に新潟県側の只見線での蒸気機関車の運行は終わりを告げます。

会津では全線開通後も蒸気機関車が走っていましたが、昭和四十九年に終了します。

蒸気機関車の後はディーゼル機関車やキハ55系などが使われるようになり、昭和五十四年からはキハ40系気動車が運用されるようになっていきます。

②「急行奥只見」の運行

只見線が全線開通した昭和四十六年八月から翌年十月までは、臨時列車として「急行奥只見」が只見駅から小出駅、そこから上越線や高崎線などを經由して上野駅まで乗り入れていました。

「急行奥只見」は昭和四十七年十月からは会津若松駅から小出駅までの只見線の急行列車として運行されます。只見線は積雪の多い地域を走るため、十二月から翌年三月までの冬季間は運休する急行でした。

昭和五十七年に上越新幹線が開業すると、「急行奥只見」は小出駅から上越線経由で浦佐駅に乗り入れるようになります。

③交通体系と生活の変化

只見線が全線開通した頃は、沿線地域でも急速に自家用車が普及していく時期でもありました。昭和四十一年から昭和四十七年の間に只見町の自動車は三倍以上に増加しています。自動車の普及に伴い道路も自動車が行き通れるように整備されていき、只見線と並行する国道二五二号線の新潟県・福島県の県境区間も、只見線の全線開通から二年後の昭和四十八年に開通します。これにより積雪期以外は自動車でも只見と大白川の間を行き来できるようになりました。

自動車が普及していくと鉄道の利用者は減少していき、全線開通した只見線も利用者が減少していき、交通手段が鉄道から自動車へ移り変わっていき、道路の無雪化で自動車が多季節の交通手段としても使えるようになっていきました。資源開発の面でも只見川の大規模な水力開発はすでに終了しており、産業構造の変化から地下資源や森林資源の開発も行われなくなりました。

高速交通網も整備されていき、昭和五十七年には上越新幹線が開通、同年には関越自動車道小出インターも開業しました。各家庭への自家用車の普及と高速交通の時代を迎え、只見線をはじめとする地方の鉄道路線はその存在意義が問われることとなります。



▶上越新幹線浦佐駅

④貨物輸送の終了と貨車駅舎

達と道路環境の向上により、鉄道での貨物輸送は減少していき、トラックが輸送の主力となっていく。

只見線でも全線開通と同時に、会津本郷駅、会津高田駅、新鶴駅、塔寺駅、会津坂本駅、会津柳津駅、滝谷駅、会津西方駅、会津宮下駅で貨物取り扱いが廃止となります。その後も他の駅の貨物取り扱いも廃止となり、昭和五十五年に大白川から小出間、



▲会津坂本駅

昭和五十七年に西若松から只見間の貨物営業が廃止となります。

国鉄では貨物輸送の合理化のため貨物列車の整理やコンテナ化を進め、それまで使われていた大量の貨車が不要となっていく。そこで、老朽化した木造駅舎の改築に合わせて、不要となった貨車を駅舎として再利用することがありました。昭和五十九年に鳥取県の御来屋駅に設置されたのが最初で、会津坂本駅の貨車駅舎はそれに続く全国で二番目の貨車駅舎となります。

貨車駅舎はかつては全国で八十か所以上がありましたが、建て替えや廃駅で姿を消したものが多く、会津坂本駅は現在も貨車駅舎が見られる貴重な存在です。

⑤赤字路線廃止問題

会津線や只見線は、利用者の数や輸送量などから不採算路線を選定し、鉄道は廃止してバスやトラックなどに切り替えることを検討する「赤字八十三線」に選定されていました。この時は只見線は六十里越トンネルが建設中であり、廃止を免れることができた。

六十二年に地域ごとに六つの旅客鉄道会社が誕生します。福島県などは東日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ東日本）の管内となり、只見線の運行は同社が行っていくことになります。

只見線は廃止は免れましたが、沿線の過疎化、人口減少、少子高齢化などによる利用者の少なさは引き続き大きな課題となります。

一方、西若松駅から分岐して田島方面へ行く会津線に関しては、西若松駅から会津高原駅までの会津線の区間は特定地方交通線に指定されており、国鉄の廃止対象の路線となっていました。そこで、この区間は国鉄の分割民営化に伴い昭和六十二年から第三セクターの会津鉄道株式会社が運行することになります。

栃木県の新藤原駅から会津高原駅（旧会津滝ノ原駅、現在の会津高原尾瀬口駅）までの区間は、昭和六十一年から第三セクターの野岩鉄道株式会社が運行を開始していたので、東京から東武鉄道、野岩鉄道、会津鉄道により会津若松へ至る鉄道路線が形成されます。これにより明治時代に南会津郡の人たちが構想していた、東京から今市、田島を経て会津若松へ至る鉄道路線が実現したことになります。

②ＳＬ会津只見号の運行

平成十三年は只見線的全線開通から三十周年となることを記念し、十月に会津若松駅から只見駅まで「ＳＬ＆ＤＬ会津只見号」が運行されます。只見線は全線開通前後にＳＬ（蒸気機関車）が廃止されているので、只見線でＳＬが走るのは約三十年ぶりのことでした。「ＳＬ＆ＤＬ会津只見号」の運行は、客車を挟んで只見方はＣ１１形蒸気機関車、若松方はＤＥ１０形ディーゼル機関車となり、往路は蒸気機関車、復路はディーゼル機関車が列車を引く

した。

昭和五十六年には旅客輸送密度が四千人未満で貨物輸送密度が四千トン未満の路線を「特定地方交通線」に指定し、廃止対象とする方針が出されます。只見線は代替輸送道路が積雪で年十日以上通行不可能になる路線は除外されるという条件に該当するため、廃止対象から除外されました。

代替輸送道路が積雪で年十日以上通行不可能になるのは福島県と新潟県の県境区間の国道二五二号線なので、只見線が全線開通して県境区間を冬でも只見線が運行するようになったことが廃止対象から除外される結果になったといえます。

⑥小説と映画

この頃の只見線や沿線を描いた小説として、昭和六十年に刊行された西村京太郎の『急行奥只見殺人事件』があります。作家の西村京太郎は十津川警部シリーズなど数多くのミステリー小説で知られていますが、この作品では浦佐、入広瀬、会津若松で起きた事件を十津川警部が只見線の「急行奥只見」に乗り捜査します。

昭和六十年十二月に公開された映画「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」では、映画冒頭の寅さんが夢から目覚めるシーンを会津高田駅で撮影しています。映画には会津高田駅の近くや滝谷川橋梁を走る車両も登場し、寅さんが柳津を訪れるシーンもあります。只見線沿線は冒頭のみで映画のメインではありませんが、寅さんが全国各地を旅している様を描き出しています。

②東日本旅客鉄道株式会社の発足

①国鉄の分割民営化と東日本旅客鉄道株式会社の発足

国鉄は経営状況の悪化から分割民営化される方針となり、昭和

格好となりました。

「ＳＬ＆ＤＬ会津只見号」の運行は大きな話題を呼び、翌平成十四年からは「ＳＬ会津只見号」として只見線にＳＬが走るようになります。平成十四年には蒸気機関車の廃止以来使われていなかった只見駅の転車台が整備され、ＳＬの方向転換ができるようになったことから往復ともにＣ１１形蒸気機関車が客車を引くようになります。

ＳＬの運行は季節により春季の場合は「ＳＬ会津只見新緑号」、夏季の場合は「ＳＬ会津只見号」、秋季の場合は「ＳＬ会津只見紅葉号」として名前を変えて運行されました。横溝英一のりもの絵本『ＳＬれっしやだいさくせん』は、この頃の「ＳＬ会津只見号」の様子を描いています。

平成二十三年に発生した新潟・福島豪雨のため会津川口駅から只見駅の間が不通となると、平成二十四年からは「ＳＬ只見線奥会津号」として会津若松駅から会津川口駅間の運行となり、平成二十九年まで運行されました。

③観光人気の上昇

只見線の沿線風景も人気を集めるようになっていきます。日本経済新聞の特集記事では、平成十五年の「雪景色のきれいなローカル線ベストテン」で第三位、平成二十年の「紅葉の美しい鉄道路線ベストテン」で只見線が第一位に選ばれており、他の人気ランキング企画でも只見線が上位に入ることが多くなり、只見線の沿線には温泉が多いことも知られるようになっていきます。

只見線の沿線を舞台としたミステリー小説としては、永嶋恵美『白銀の鉄路 会津―奥只見追跡行』、金久保茂樹『奥会津隠れ里伝説殺人事件』、相場英雄『奥会津三泣き因習の殺意』があります。

7. 大規模災害から全線運転再開

④タブレット閉塞の終り

タブレット閉塞とは、同じ線路に二つ以上の列車が走って衝突する事を防ぎ安全確保をする仕組みで、かつては全国の鉄道で行われていました。単線では列車の行き違いができる駅と駅の間をタブレットと呼ばれる金属製の円盤を持った列車だけが線路を走るようにして、その区間のタブレットを持っていない列車は走れないようにします。

只見線では平成十九年に小出駅から大白川駅の間でタブレット閉塞式が終了し、特殊自動閉塞式という別の方式になりました。只見駅から大白川駅の間は平成二十年、西若松駅から会津坂下駅間は平成二十三年に特殊自動閉塞式になり、会津坂下駅から只見駅間がJRの旅客線で最後のタブレット閉塞式区間として残りました。

会津坂下駅から只見駅間のうち、会津川口駅から只見駅間は平成二十三年七月に発生した新潟・福島豪雨の影響で不通となり、会津坂下駅から会津川口駅間は平成二十四年にタブレット閉塞式から特殊自動閉塞式に替わり、JRの旅客線でタブレット閉塞方式を行う路線はなくなりました。



▲会津柳津駅のタブレット閉塞機

小出駅経由で大白川駅まで運行されます。「只見線四十周年号」は只見駅まで行く予定でしたが、大白川駅から只見駅の間が不通となっていたため、大白川駅で折り返しとなりました。

十二月三日には会津宮下駅から会津川口駅間が復旧し、会津川口駅から大白川駅までの区間が列車の不通区間として残り残りました。

翌平成二十四年十月一日に只見駅から大白川駅間が復旧し、新潟・福島豪雨の発生以来列車が来なかった只見駅に小出からの列車が来るようになります。不通区間として残ったのは会津川口駅から只見駅の間ですが、その区間は鉄橋が流失していて列車が通ることができないので、代行バスでの運行となりました。

②復旧方針の模索

平成二十四年十月から只見線は、会津若松駅から会津川口駅までは列車、会津川口駅から只見駅までは代行バス、只見駅から小出駅までは列車という状況が続くことになりました。

▲代行バス



平成二十五年五月にJR東日本は会津川口駅から只見駅間の復旧費用が約八十五億円、工期が四年以上になるとの見通しを示します。只見線の復旧に関してはすでに会津坂下から会津川口間や、小出から只見間の復旧工事で数億円の費用がかかっており、会津川口から只見間の流失した橋桁の撤去にも多額の費用がかかっていました。

只見線は利用者数が少ない路線で

(1) 豪雨災害から上下分離方式での復旧

①新潟・福島豪雨の発生

平成二十三年は三月十一日に東日本大震災が発生し、福島県の浜通りをはじめ東北地方の各地で大きな被害がありました。

この年は只見線の全線開通から四十周年となる年で、七月二十三日と二十四日には記念列車の「只見線全線開通四十周年号」が会津若松駅から只見駅間で運行されました。

ところが、七月二十七日から三十日にかけて新潟・福島豪雨が発生し只見線は大きな被害を受けます。会津坂本駅から会津柳津駅間で盛土崩壊、早戸駅から会津水沼駅間で橋梁洗堀や路盤流失、会津水沼駅から会津川口駅間で護岸壁洗堀などがあり、会津川口駅から只見駅の間では第五只見川橋梁桁流失、第六只見川橋梁桁流失、第七只見川橋梁桁流失、第八只見川橋梁付近で橋脚洗堀、盛土崩壊、路盤沈下などが発生、このほかにも随所で斜面崩壊、軌道変状などがありました。

豪雨災害の発生後は会津坂下駅から小出駅までの区間が不通となりましたが、八月七日に会津坂下駅から会津宮下駅間、八月十一日に小出駅から大白川駅間が復旧し、「只見線四十周年号」が長岡駅から



▲被災した第五只見川橋梁

あり、会津盆地や小出周辺では高校生の通学利用で比較的乗車人数がありますが、只見川沿いから県境区間の乗車人数は少なくなります。特に会津川口から只見間は一日に三本しか列車がなく、只見線の中でも日平均通過人員が非常に少ない区間でした。

只見線自体が利用人数が少ない上、鉄橋の架け替えが必要な会津川口から只見間は最も利用者数が少なくなるので、すでに会津坂下から会津川口間や小出から只見間の復旧工事や橋桁の撤去で多額の費用がかかっている状態で、さらに多額の費用をかけて鉄道として復旧しても費用対効果の観点からはメリットがありません。利用人数からは、列車ではなくバスでの運行の方が適しているという見方もありました。

そこで、只見線の復旧・復興に向けた連携の強化と只見線の活用促進策等を検討するため、同年十一月に福島県と会津の十七市町村、新潟県と魚沼市、関係団体で構成する「JR只見線復興推進会議」が設置され、活用策の検討や住民懇談会を開催していきます。

只見線の復旧のため、福島県と会津の十七市町村は「只見線復興基金」を積み立て、平成二十六年には福島県が「只見線応援団」を設立します。平成二十七年には只見線沿線の自治体による只見線活性化対策協議会により、只見線応援キャラクターの「キハちゃん」が誕生します。

一方、平成二十五年三月には田子倉駅が廃止となり、平成二十七年三月には柿ノ木駅が廃止となりました。

③上下分離方式での復旧方針

平成二十八年三月には「JR只見線復興推進会議」のもと、福島県と会津若松市、会津美里町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山

町、只見町の首長で構成される「只見線復興推進会議検討会」が立ち上がり、JR東日本と国土交通省がオブザーバーとして加わります。

「只見線復興推進会議検討会」の第三回検討会ではJR東日本からバスと鉄道の二通りの提案がなされます。バス転換の場合はJR東日本が責任をもつて地域ニーズに合わせて運行することを提案し、鉄道での復旧の場合はすべてをJR東日本が負担しての復旧は困難であり、復旧費に加えて施設の維持管理などの地元負担を必要とする「上下分離方式」ではどうかという提案でした。「上下分離方式」とは、車両の運行などを行う「上部」の主体と、鉄道の線路や駅舎などの施設や土地といった「下部」の保有や維持管理を行う主体とを分ける方法です。一般的なバスの場合、バス事業者はバスの運行を担い、バスが走る道路は国や地方自治体等が保有し維持管理に当たっていますが、これは「上下分離方式」の一例です。

鉄道の場合は鉄道事業者が線路や駅などを保有し、列車の運行も行っているため、施設の維持管理や除雪などで多額の費用がかかります。そのため、線路や駅舎などの施設は自治体等が保有し維持管理にあたり、鉄道事業者は列車の運行だけとすれば、その分、負担が軽減されます。会津川口駅から只見駅間は輸送人数だけであればバスでも対応でき、バスの運行でも公共交通機関としての役割を果たすことができます。多額の費用を使って鉄道として復旧し、その後も維持をし続けることは株式会社であるJR東日本としては非常に難しいところですが、地元からの鉄道での復旧という強い要望を受け、鉄道として復旧し維持するための方法として「上下分離方式」の提案がなされたのでしょう。

この提案を受けて「只見線復興推進会議検討会」では、バス転換

から、只見線を地域の将来像を描き、地方創生を成し遂げるための起爆剤として鉄道で復旧させることになりました。

④様々な人たちの取組

只見線の復旧が不透明な中、沿線の自治体では乗車促進の取組などが行われ、様々な人々たちによる活動も続いていました。

建設会社に通っていた奥会津郷土写真家の星賢孝さんは奥会津地域の衰退に危機感を持ち、観光での地域おこしに取り組みます。星さんは只見線が走る風景を写真に撮り広めることで他所から人に来てもらい、産業の活性化につなげようと考えます。星さんの只見線の写真は台湾などで人気が高まり、海外からの観光客が奥会津に来るのを見た地域の人たちも只見線の魅力を見直すようになります。星さんは只見線が走ることによって人が来て地域全体への経済効果が生まれている点を重視し、さらに魅力を高めるため、写真撮影場所の整備や景観整備、「霧幻峡の渡し」の運営など幅広く取り組んでいます。

平成二十七年には只見線沿線の六市町村で「只見線にみんなの手をふろう条例」が制定されます。この条例は列車に手をふる活動を広めることにより、乗客者へおもてなしの気持ちを示し、地域住民の只見線に対する愛着を深め、力強く走る只見線を応援する



■手を振る人々たち

と上下分離方式での復旧との二通りについてメリット、デメリットの検討を進めます。そして、二回の住民懇談会を経た十二月の第六回検討会で「県と沿線自治体が一丸となって様々な課題を克服し、国、JR東日本の協力を得ながら、上下分離方式により只見線を鉄道で復旧させる」という方針を採択します。

翌平成二十九年一月の第七回検討会で上下分離方式の具体的な運営方法等を検討し、三月の「JR只見線復興推進会議」で地元の総意として上下分離方式による復旧方針を決定し、福島県と会津の十七市町村で確認書を締結。六月に福島県とJR東日本は会津川口駅から只見駅間を「上下分離方式」により鉄道で復旧することと合意します。

約八十一億円とされた復旧工事費用のうち、JR東日本は三分の一に当たる二十七億円を負担し、福島県と会津の十七市町村が残りの五十四億円を負担します。五十四億円のうち二十一億円は「只見線復興基金」を充てることとし、三十三億円は福島県が負担することになりました。「上下分離方式」で地元が負担する運営費は約二億一千万円で、福島県が七割、会津の市町村が三割という負担割合となりました。

平成二十三年七月の新潟・福島豪雨の発生から六年をかけて只見線の会津川口駅から只見駅間は「上下分離方式」での復旧が決まります。「上下分離方式」では線路などの構造物は福島県が保有し、除雪をはじめとする維持費は福島県と会津の市町村が負担することになります。住民懇談会などでは多額の地元負担が続く鉄道での復旧よりも、バス転換の方が現実的であるという声もあり、すべての人が鉄道での復旧に賛成していた訳ではありません。しかし、人口減少・高齢化が進行する会津地域にとって有効な手立てを講じなければ地域の衰退が加速するという強い危機感

ことを目的として制定されました。

新潟・福島豪雨の影響で只見線に列車が来なくなり、豪雨災害の翌年に大白川駅から只見駅の間が復旧し列車が只見駅まで来るようになった時、只見駅の駅舎内に事務所があった只見町観光まちづくり協会では「豪雨災害の前は列車が駅に毎日来るのは当たり前だったが、一年以上駅に列車が来なかった経験から、列車が駅に来るのは当たり前ではなく、とてもありがたいこと」として、毎日只見線の列車に手を振ることにします。只見線に手を振る様子を見た魚沼市役所(当時)の青木進さんは、「只見線に手を振ることを特別なことにするのはなく、当たり前のようにしよう」と考え、只見線に手を振る条例を沿線の町村にも提案し実現しました。

駅に列車が来ることは「当たり前なこと」ではなく、「特別なこと」と気づいたところから只見線に手を振る取組が始まり、只見線に手を振る取組を「特別なこと」ではなく、「当たり前のこと」にするため、「只見線にみんなの手をふろう条例」が制定されたといえます。

只見町観光まちづくり協会で手を振る活動を始めた酒井治子さんは、只見線と奥会津を盛り上げるための様々な活動を行い、高校生や中学生が帰ってくるができる地域づくりに取り組みます。平成三十年からは福島県の只見線地域コーディネーターに委嘱され、仲間と立ち上げた合同会社メーデルリフでは只見線をモチーフとした独自の商品開発をしています。只見線に関することは行政頼りや補助金を利用した単発的なイベントになつてしまいがちですが、只見線を活用した持続できるビジネスが成立することを示すことで、只見線や沿線地域の存続につなげよう



▲松本忠「水面に映す奇跡」只見線会津川口一本名

全国の「鉄道のある風景」を描いている鉄道風景画家の松本忠さんは、震災や水害などで被災した鉄道やローカル線を応援するため現地の駅を訪ねた際に切符を購入し、自身の絵と言葉が入ったカードに貼り個展来場者にプレゼントする活動をしています。なかでも只見線の風景を数多く描いており、平成二十六年には只見町と金山町で只見線応援展を開催し、会場費を除く売上の全額を、只見駅、会津川口駅での切符購入と只見線復旧復興基金への寄付に充て、購入した切符は只見町と金山町の小学生と保護者全員にプレゼントしました。また、「只見線詩画ポスター」を自主制作し、各地での個展で来場者に無料でプレゼント（約三〇〇枚）しました。令和元年には子供たちが描いた只見線の絵を車内に飾った「只見線ギャラリートレイン」も運行するなど只見線の魅力を多くの人に知ってもらう活動を続けています。

俳優の六角精児さんは鉄道好きで知られており、ローカル線に乗りながら地酒を楽しむ旅番組にも出演しています。只見線は六角さんが好きな路線で、冬の雪景色が特に気に入っているそうです。平成二十九年には自身の六角精児バンドで『只見線のうた』を発表しています。『只見線のうた』では、只見線が全線開通しては

しいという願いや沿線住民の思いなどを込めています。会津大学短期大学部の高橋延昌教授は、平成二十六年から奥会津地域を対象とした共同プロジェクトを進めることになり、ゼミの学生と共に町民インタビューやイベントへの参加などをして只見線の活用や地域の社会問題の調査を続けています。高橋教授のゼミでは奥会津地域をPRするポスターのデザイン、奥会津地域の魅力を発信するためのパンフレットやノベルティグッズの制作、奥会津のお菓子のパッケージのデザイン、スマホカバーやラッピングバスのデザインなどを行っています。この他にもたくさんの試みがあり、只見線を応援する歌では令和元年に奥山えいじさんの『只見線恋歌』、とよのみさこさんの『只見線』がリリースされました。この頃の只見線を舞台としたミステリー小説では、柴田哲孝『赤猫刑事・片倉康孝 只見線殺人事件』があります。

⑤鉄道軌道整備法の改正

只見線の復旧に向けては、国会議員も法改正に尽力しました。鉄道軌道整備法には被災した鉄道の復旧に要する費用の一部を国が助成する制度があります。しかし、新潟・福島豪雨が発生した時には補助の対象が赤字の鉄道事業者に限定されており、只見線は赤字路線であっても、只見線の管理と運行をするJR東日本は黒字の鉄道事業者に該当するため災害復旧事業費の交付対象からは外れてしまう状況でした。

只見線だけでなく、全国各地で自然災害により被災する地方ローカル線が多発していましたが、黒字の鉄道事業者の赤字路線が被災した場合の支援制度がないため復旧が進まず、大きな課題となっていました。

山町で起工式が行われ工事が始まります。

会津川口方の一径間が流失した第五只見川橋梁は、損傷のなかったトラス桁はそのまま使用することとし、流失した部分は橋脚を新設して新しい橋を架けました。



▶第六只見川橋梁の復旧工事

⑥只見線活用計画の策定

第六回只見線復興推進会議検討会で只見線の「上下分離方式」での復旧方針が採択されると、県、沿線自治体、有識者等で構成する只見線活用プロジェクトチームが設けられ、平成二十九年度に「只見線活用計画」が策定されます。

「只見線活用計画」では、目指すべき姿として「只見線が日本一の「地方創生路線」として生活路線、観光路線、教育路線、産業路線で活用されるとともに、それらが循環し成長することで、何度でも乗りたい・訪れたいと思える路線・地域となる」ことを掲げ、只見線の利用者数を増やし、只見線を活用した会津地域の交流人口・定住人口の拡大を図るとしました。

そのために、地域資源を生かした企画列車や学習列車の運行、奥会津の景観整備、二次交通の確保など九つの重点プロジェクトを掲げ、全線運転再開に向けてそれぞれのプロジェクトが実施されていきます。

⑦復旧工事

会津川口駅から只見駅間の復旧は、平成三十年六月十五日に金



▶第七只見川橋梁の復旧工事

上路ワレントラスでしたが、河川水位の上昇に備えて橋脚の配置を変更し、下路トラス橋に架け替えられました。

第八只見川橋梁は新潟・福島豪雨では橋桁が冠水して橋脚洗堀や流木堆積などが生じ、付近でも盛土崩壊、線路沈下、土砂流入などの被害がありました。復旧に当たっては鉄橋のかさ上げが検討されていましたが、多額の費用がかかるためかさ上げは行わず、土留壁の補強や法面の改修などを行いました。

⑧キハE120系、キハ110系の運行開始

只見線では長らくキハ40系気動車が運行されてきましたが、令和二年三月からキハE120形が導入され、会津若松駅から只見駅間で営業運転を開始しました。

車体デザインは只見川と残雪、新緑の山々をイメージした只見線オリジナルの配色としました。

小出駅から只見駅間では七月からキハ110系が運用されるようになりますが、全線運転再開後の令和四年十一月からはキハ40系のカラーリングを復刻したキハ110系が運転されています。

⑨只見線全線開通五十周年

令和三年は只見線の全線開通から五十周年でした。福島県の只見線利活用プロジェクト事業の一環として七月には会津鉄道の「お座トロ展望列車」が会津若松駅から会津川口駅間を運行しました。

全線開通の記念日である八月二十九日には、通常は新潟から山形県の酒田間を運行している観光列車の「海里」が新潟から小出駅を經由して只見駅まで運行されました。

オープンし、全線運転再開に合わせて「自然首都只見水の郷うまいもんまつり」が開催され、福島県による記念式典も行われました。

全線運転再開後は連日多くの人が只見線に乗車し、座席に座れず立ちっぱなしになる人も少なくありませんでした。また、全線運転は再開しましたが、全線通して運転する列車の本数は一日三本と少ない状況も続いています。

②ショートムービー「あいせき列車只見線」

只見線の全線運転再開を記念し、金山町では只見線や沿線の市町村の魅力を多くの人に知ってもらいたいという思いで有志がショートムービー「あいせき列車只見線」を制作しました。「あいせき列車只見線」は、若手俳優の福山翔大さんや小野花梨さんが出演し、金山町に移住したテレビ番組制作の経験者たちが監督やカメラマンを務め、撮影エキストラにも金山町の人が多く協力しました。「あいせき列車只見線」はYouTubeチャンネルで公開されています。

③只見線の歌

只見線の全線運転再開の前後には、ミュージシャンによる只見線を応援する歌も作成されています。

只見町出身のシンガーソングライターの大竹涼華さんは、只見線応援ソングの「大切な場所があるレールウェイ」を作詞作曲しました。

会津若松市出身で会津若松市観光大使も務めるシンガーソングライター越尾さくらさんは、只見線の全線運転再開を記念して「MUGENKYO」と「Green Train」を応援ソングと

(2) 全線運転再開

①全線再開通

只見線の全線運転再開に先立ち、只見線の利活用促進と安定的な維持管理のため、福島県は令和四年八月に会津若松駅構内に只見線管理事務所を設置します。

復旧工事がすべて完了し、只見線の全線運転が再開したのは令和四年十月一日でした。新潟・福島豪雨の発生から十一年を経ての全線復旧となります。

十月一日は会津若松発小出行き列車が午前六時八分に発車し、全線開通の一番列車に乗る人たちが乗り込みました。ところが、塔寺駅から会津坂本駅の間で車両トラブルが発生してしまいました。一番列車の乗客達は代行バスで只見へ向かうことになりました。

一番列車は会津坂下駅に戻され、記念列車の「再会、只見線号」は約二時間半遅れで会津若松駅を発します。各駅では地元の人たちが集まり、横断幕や小旗を振って記念列車を見送りました。記念列車は予定よりも遅れての運行でしたが、駅に集まった人たちは列車が来るまで待っていました。

只見駅前には只見町インフォメーションセンターが



▲全線運転再開の記念列車

してリリースしています。

会津を中心に活動するバンド「B2mac Special (ビートマック・スペシャル)」は、ニューシングルで全線開通となる只見線や昭和村、只見町をテーマとした楽曲を作成しました。

只見線の全線運転再開を応援しようと、作詞を手掛ける齋藤工さんの呼びかけで、歌手の岩崎良美さんや会津若松市出身の作曲家シライシ紗トリさんなどで結成した「只見線応援楽団」が応援ソング「只見線」をリリースしています。

④只見線こども会議

只見線の全線運転再開後、只見町の小中高生らにより「只見線こども会議」が発足します。

只見線こども会議は、只見町に住む小学生(当時)の角田淳紘さんが「只見線利活用会議」を傍聴した時に「子どもも意見を言える場所がほしい」と感じたことをきっかけに、地域の大人や保護者が協力して「こどもが主役となって只見線の未来を語り合う場」をつくろうと誕生しました。

令和五年九月に開かれた会議では、只見中学校(当時)の角田杏さんが五能線を走る観光列車「リゾートしらかみ樺編成」を只見線で走らせるアイデアを提案し、こども会議のメンバーらが「リゾートしらかみ樺を只見線で走らせたい」という呼びかけの署名活動を只見町内、沿線市町村で実施します。三千七百人以上の署名が集まり、十二月に福島県、JR東日本会津若松エリアプロジェクト、東北運輸局に提出します。

そして、令和七年四月には、ふくしまプレステイネーションキャンペーンの企画として、福島県と東日本旅客鉄道株式会社東

北本部が連携し、只見線で「リゾートしらかみ櫛編成」の運行が実現します。

⑤会津柳津駅のリニューアル

柳津町は会津柳津駅の利活用についてJR東日本と協議を進め、令和五年三月に駅舎を無償譲渡されました。柳津町は駅舎を観光振興と交流人口拡大に役立てるため、赤べこ工房やワークショップスペース、カフェ、観光案内窓口、物販スペースを設けた複合施設として改修工事を行います。

会津柳津駅は令和六年四月に「柳津町会津柳津駅含情報発信交流施設」としてリニューアルオープンし、公募により愛称は「あいべこ」と名付けられました。



▶リニューアルした会津柳津駅

⑥今後の課題

只見線は全線運転を再開しましたが、今後の課題も多くあります。只見線の沿線の過疎化は深刻で、人口が少なく、高齢化率が高い地域です。交通手段としては自家用車がありますので、生活路線として只見線を利用するのは現実的ではない面もあります。

そこで只見線の魅力を発信して観光客に来てもらうことが、鉄道での復旧の大きな目的の一つでしたが、昼間に走る列車の本数の少なさや雪などでの運休の多さが課題となります。観光として乗車する場合は車窓の風景を楽しむのが目的の一つなので、外の

上三寄までが開通し、その次に会津柳津駅までが開通、次に田島方面である湯野上温泉駅、会津田島駅までが開通します。会津線が開通したことにより、沿線の陶磁器や木材、木炭、米などの移出が盛んになり、柳津の圓蔵寺虚空蔵菩薩への参詣は鉄道で行くようになりました。

会津田島駅までが開通すると、柳津から川口、小出から只見までの区間の工事に着手されますが、日中戦争の勃発により工事は遅れます。しかし、拡大する戦争を遂行するための電力増強や軍需物資である鉄鋼増産のための珪石輸送の必要性から、会津柳津駅から会津宮下駅間と、小出駅から大田川駅までの区間が開通します。

第二次大戦が終わると会津宮下駅から会津川口駅の区間の工事が再開し、会津川口駅までが開通、その延長として田子倉専用鉄道も建設されます。この時期は沿線の人たちにとって会津線や只見線はなくてはならない存在になっており、特に冬の交通機関としては鉄道が唯一でした。

田子倉ダム・発電所が完成すると田子倉専用鉄道は国鉄に編入され、昭和四十六年に全線開通します。しかし、只見線の全線開通の頃から自家用車が急速に普及し、沿線の人たちの移動手段は只見線から自家用車に変わっていきます。林業や鉱業など沿線の産業も衰え、只見線の貨物輸送も終了します。新幹線や高速道路など高速交通網の整備も進み、地方のローカル線は存続が危惧されま



▲全線復旧した只見線へのメッセージ

風景が見える時間帯の列車に乗るのが普通ですが、只見線の場合は昼間の列車の本数が少ないので、列車の時間の選択肢が限られます。また、台湾や香港など雪が降らない地域の人たちの中には只見線の雪景色を見るために奥会津を訪れる人もいますが、雪で運休することが多いため只見線に乗車したり雪の中を列車が走る風景を見たりすることができない場合があります。

全線運転再開直後は多くの人が訪れましたが、時間の経過とともに乗車する人も少なくなっています。復旧したから安泰ということにはならず、上下分離方式による地元負担や、鉄道施設の老朽化なども課題となります。単に復旧するだけではなく、只見線が地域に存在意義をもたらすものでなければなりません。

8. まとめ

只見線は会津若松から田島・柳津をつなぐ鉄道と、柳津から小出をつなぐ鉄道がつながってできています。

会津若松から田島・柳津をつなぐ鉄道は、磐越西線の開通後に立てられた会津若松駅から南会津郡・大沼郡・河沼郡へ伸びる軽便鉄道の構想を、鉄道建設を実現させるために一つの路線にまとめていつて計画ができていったと考えられます。

柳津まで会津線が来ることが決まる頃、上越線が小出を通ることが決定したことなどから、柳津から小出までの間にも鉄道を建設しようとする運動が始まり、改正鉄道敷設法で柳津から只見を経て小出へ至る鉄道が予定線の一つとされます。

会津線の会津坂下駅までの区間が開通したのは大正十五年のことでした。会津線は柳津方面と田島方面の二つがあったので建設は交互に行われ、柳津方面である会津坂下駅の次は田島方面の

すが、只見線は並行する道路の一部が冬季は積雪により通行止めとなるため廃止を免れます。

只見線の全線開通から三十周年の時にはSLの運行が復活し、それをきっかけに毎年の運行が続くようになります。全線開通から四十周年の時には新潟・福島豪雨が発生し、鉄橋が流失するなど非常に大きな被害を受けます。

只見線の復旧を巡っては様々な議論がなされましたが、会津川口から只見までの区間を上下分離方式で復旧させることが決まり、新潟・福島豪雨の発生から十一年後、全線開通から五十一年目となる令和四年に全線運転を再開します。

現在、只見線となっている路線は、その時々、社会的な背景、経済的な必要性などから数十年をかけて段階的に建設されてきました。しかし、全線開通後は人々の移動手段は自家用車に変わり、沿線の資源開発や輸送も終了、またはトラックへの切り替えとなり、鉄道が必要とされた時期とは社会情勢や産業・経済構造が大きく変わっています。沿線の開発や冬の移動手段など、それぞれの段階で只見線が担った役割は現在では只見線以外が担っています。

それでは、只見線はすでに役割を終えた存在なのでしょうか。それぞれの時期の建設目的は現在とはなくなっている、目的を達成し役割を終えたということもできるかもしれません。しかし、新潟・福島豪雨の発生と復旧方針を巡る数年間にわたる議論を経て、現在の只見線は「地域の存続のために欠かせない存在」と位置づけられるようになりました。只見線は沿線地域の産業開発や住民の移動手段としての存在から、過疎化と少子高齢化、人口減少の著しい地域へ人を呼び込むという新しい役割と価値が見いだされるようになったのです。

只見線はそれだけではなく、やっても赤字になってしまいますが、それでも鉄道での復旧を望み、実現した社会的な需要はあると考えられ、只見線は地方ローカル線の社会的な問題や需要を考えるための地域資源の一つになっているといえるでしょう。

9. 土木学会選奨土木遺産と只見線の土木構造物

令和三年に公益社団法人土木学会により「只見線鉄道施設群」が「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。「土木学会選奨土木遺産」は、歴史・文化的に価値の高い土木構造物を広くPRし、貴重な土木遺産を保存し続けることを目的として公益社団法人土木学会が平成十二年に設立した認定制度です。選奨土木遺産の認定により、土木遺産の文化的価値への理解を促すとともに、土木技術者としての責任感、文化財創出意欲促進、まちづくり資源としての活用、失われるおそれのある土木遺産の救済などが期待されています。

「只見線鉄道施設群」は選定理由を「福島・新潟両県の地域資源の活用や豪雪地帯を結ぶライフラインとして、その機能美や四季折々の風景を創生する貴重な土木遺産群です」として、大川橋梁、宮川橋梁、滝谷川橋梁、第一只見川橋梁、第二只見川橋梁、大谷川橋梁、阿寺沢橋梁、第二左鞆橋梁、山中沢橋梁、第三只見川橋梁、細越橋梁、第四只見川橋梁、第五只見川橋梁、第二西谷橋梁、第八只見川橋梁、六十里越トンネル、第四平石川橋梁の十七施設が認定されました。

ここでは建設された区間ごとに、選奨土木遺産に認定された鉄道施設などを見ていきたいと思います。



▶魚野川橋梁

間に架かる主桁は直線ですが、主桁と主桁の間の部材である横桁に通ず縦桁を階段状にずらしていくことで曲線の橋としています。また、魚野川橋梁は魚野川と破間川の合流点に近いため、洪水が起きた時の川の流れを考慮して五基の橋脚は別々の方向になるように建設されています。

入広瀬駅と大白川駅の間にある第四平石川橋梁は昭和十三年に完成し、橋の側面に隙間が空いていない充腹式アーチとして、支間(上部構造を支える支点と支点の間の長さ)が国内で最大の鉄筋コンクリートアーチ橋です。第四平石川橋梁の場所は流れが急で流量も多いことから、川の中に橋脚を立てる桁橋ではなく、アーチ橋が採用されました。施工にあたっては地形的に大規模な足場建設が難しかったため、分解可能な鋼製アーチセントル(コンクリートの型枠を支える構造物)が設計されアーチ橋の施工に初めて使用されました。第四平石川橋梁で使われた鋼製アーチセントルは、大谷川橋梁の施工でも使用されました。



▶第四平石川橋梁

他に、終点であった大白川駅には

(1) 会津若松から坂下、柳津

会津若松から坂下、柳津までの区間は只見線で最初に建設された区間です。この区間の主な構造物としては、大川橋梁、宮川橋梁、七折峠のトンネルが挙げられます。



▶大川橋梁の橋脚

西若松駅から会津本郷駅の間にある大川橋梁は、大正十四年に完成した上落式プレートガーダー橋です。プレートガーダーは橋台や橋脚の間に桁を架け、鉄道の場合は桁の上に線路を敷いた橋で、鉄道橋として一般的なものです。

大川橋梁の場合は橋脚が円筒形の石張りコンクリートとなっているのが特徴的です。これは石で円筒を造り、円筒の内部にコンクリートを充填しているものです。コンクリートが貴重だった時代にはコンクリートの使用量を節約することができました。大正十五年完成の宮川橋梁も同様となっています。

塔寺駅から会津坂本駅の間には七折峠があります。只見線の線路は七折峠の付近では四本のトンネルを通り七折峠を越えています。

(2) 小出から大白川

小出駅から大白川駅の間は主な構造物としては、魚野川橋梁と第四平石川橋梁が挙げられます。

小出駅を発車した列車はすぐに魚野川を渡りますが、魚野川に架かるのが魚野川橋梁です。昭和十二年完成の魚野川橋梁は半径二五〇メートルの曲線を描くのが大きな特徴です。橋脚と橋脚の

かつて転車台や給水塔がありましたが、それらは撤去されて現在はありません。

(3) 柳津から宮下

会津柳津駅から会津宮下駅の間は主な構造物としては、滝谷川橋梁、原谷トンネル、第一只見川橋梁、第二只見川橋梁、大谷川橋梁、会津宮下駅の転車台と給炭台が挙げられます。

滝谷駅のすぐ近くにある滝谷川橋梁は中央部がワーレントラスとなります。ワーレントラスは上下の部材が平行で、上下間の部材が「W」字型に配置される形式です。滝谷川橋梁は写真の撮影場所が整備されており、只見線の中では最も河床から高い場所を通過する鉄橋です。



▶滝谷川橋梁



▶第一只見川橋梁

昭和十三年完成の第一只見川橋梁は只見線を代表する鉄橋で、トラス構造のアーチ橋となっています。トラス構造とは複数の部材を三角形に組み合わせた構造で、頑丈なので橋台や橋脚の間を長くすることができ、スパンドレルブレーストバランストアーチという型式ですが、スパンドレルブレーストアーチは橋の上の列車が通る部分と弓なりの部分が

トラスで構成された橋梁をいいます。アーチ構造ではアーチの端部で外側に広がる力が生れますが、第一只見川橋梁では橋台から両側にもアーチを造ることで、端部が外側に広がる力とそれを低減させており、橋台から橋台までの単径間アーチよりも合理的な鉄橋となっています。この形式は国内の鉄道橋では三例のみで、第一只見川橋梁は橋台から橋台の間の長さが最大で、現在も使用されている唯一の例となります。

会津西方駅と会津宮下駅の間には第二只見川橋梁があります。第二只見川橋梁は中央部が二径間連続ワレントラス、両側がプレートガーダーの組み合わせでできています。滝谷川橋梁は一径間（橋台や橋脚の間が一所）のワレントラスですが、第二只見川橋梁が架かる場所は川幅が広いので二径間連続ワレントラスとしています。第一只見川橋梁の場合はアーチ橋とすることで長い鉄橋を架けていますが、戦争の拡大で鉄鋼統制が厳しくなったので第二只見川橋梁は鋼材使用量を減らせる連続トラスで造られました。



▶第二只見川橋梁

会津宮下駅の近くにある大谷川橋梁は昭和十四年の完成で、完成当時は支間が国内で最大のコンクリートアーチ橋でした。施工には第四平石川橋梁で使った鋼製アーチセントルが使われています。只見線の第四平石川橋梁は充腹式アーチですが、大谷川橋梁は自重軽減や材料の節約ができる開腹式アーチになっています。

橋梁、滝原トンネル、早戸トンネル、細越橋梁、第四只見川橋梁、会津中川駅の本造駅舎、会津川口駅の転車台があります。

阿寺沢橋梁、第二左鞆橋梁、山中沢橋梁、細越橋梁はすべて昭和十四年に完成したコンクリートアーチ橋です。会津宮下駅から会津川口駅間の営業運転の開始は昭和三十一年ですが、当初は会津柳津駅から会津川口駅までを開通させる予定で工事が進んでいたため、会津宮下駅よりも川口側にあるこれらの橋梁も昭和十四年に完成しています。

会津宮下駅から早戸駅の間にある第三只見川橋梁は三径間連続ワレントラスで建設されています。只見線のワレントラスは滝谷川橋梁で一径間、第二只見川橋梁で二径間連続で建設されていますが、第三只見川橋梁は三径間連続ワレントラスで、三



◀第四只見川橋梁

大谷川橋梁付近は県道小栗山宮下線の宮下橋と国道二五二号線の新宮下橋が架かり、どれも同じ開腹式アーチ橋です。鉄道橋と道路橋では規格が異なるので、同じ場所であっても異なる型式で設計されることが多いですが、この三基は同じ型式を採用しており、非常に珍しい場所です。三基の橋梁が見られる場所は「アーチ三兄弟」が撮影できる場所となっています。

会津宮下駅には現在使われていませんが、転車台と給炭台が残っています。転車台は車両の方向転換をするための施設で、終点となる駅などでは主に蒸気機関車の方向転換に利用されていました。会津宮下駅の転車台は昭和十五年の日本橋梁製です。駅は昭和十六年の開業なので、駅の開業に備えて転車台も設置されたと考えられます。転車台の近くには蒸気機関車に石炭を積み込んでいた給炭台も残っています。どちらも現在は使われていませんが、会津宮下駅が終点であったことを示す施設です。

（4）宮下から川口
会津宮下駅から会津川口駅の間には主な構造物として、阿寺沢橋梁、第二左鞆橋梁、山中沢橋梁、第三只見川



▶細越橋梁

径間連続は国内では最初のものとなります。昭和二十七年に着工した上田ダムや本名ダムの建設資材運搬のため、会津宮下駅から会津川口駅の間には営業運転開始よりも前に貨物輸送ができるようにする必要があり、第三只見川橋梁も昭和二十八年に完成しました。

会津水沼駅と会津中川駅の間にある第四只見川橋梁も昭和十八年の完成です。滝谷川橋梁から第三只見川橋梁までは列車がトラスの上を走る上路式ですが、第四只見川橋梁はトラスの下側を走る下路式となっています。

会津川口駅の転車台は、転車台のピットは昭和三十年の竣工ですが、桁は汽車製造株式会社が、大正十四年に製造したものです。転車台のピットは会津川口駅の開業に備えて建設したのですが、桁は別のところから持ってきたものとなります。蒸気機関車が廃止となってからは使われていませんでしたが、平成二十三年の新潟・福島豪雨の影響で会津川口駅から只見駅の間は列車が通れなくなったため、平成二十四年のSL只見線奥会津号は会津川口駅で折り返しとなり、そのために転車台が再整備されました。



▶会津川口駅転車台

（5）川口から只見

会津川口駅から只見駅間の主な構造物としては、第五只見川橋梁、第二西谷橋梁、第六只見川橋梁、本名トンネル、第七只見川橋梁、滝原トンネル、第八只見川橋梁、蒲生トンネル、叶津川橋梁が



▶中央が大谷川橋梁

挙げられます。

この区間は会津川口駅から田子倉ダム・発電所の建設現場まで田子倉専用鉄道として建設され、昭和三十八年から供用が開始されました。会津川口駅と本名駅の間に第五只見川橋梁は専用鉄道のために建設された橋梁で、曲弦ワーレントラスと四連のプレートガーダーとなっています。平成二十三年の新潟・福島豪雨では、会津川口駅側のプレートガーダーが一連流失しましたが、ワーレントラスは冠水や流失はしませんでした。

本名駅と会津越川駅の間にある第六只見川橋梁は新潟・福島豪雨で上落式トラス桁とそれにつながる前後の桁が流失し、復旧工事で新しく下落式トラスが架けられました。

会津横田駅と会津大塩駅の間にある第七只見川橋梁は、新潟・福島豪雨で上落式トラス桁とプレートガーダー一連が流失しました。復旧工事では橋脚の数を減らして下落式トラスが新しく架けられました。

この区間を特徴づけるのは第八只見川橋梁です。会津塩沢駅と会津蒲生駅の間にある第八只見川橋梁は、元々は愛知県と長野県をつなぐ三信鉄道（現在の飯田線）の天竜川橋梁でした。天竜川橋梁は三信鉄道の中部分天竜駅と旧佐久間駅（現在の佐久間駅の西側）の間にあり、昭和十一年に完成しました。



佐久間ダム

昭和二十八年に電源開発株式会社により天竜川で佐久間ダムの工事が始まり、佐久間ダムは日本有数の大規模ダムで、佐久間ダム

の建設に伴い飯田線の一部区間がダム湖に水没することから、中部天竜駅から大嵐駅までの区間は天竜川の支流である水窪川沿いを通るよう付け替えられることになりました。

そのため、付け替え区間には新しい天竜川橋梁が架けられることになり、古い天竜川橋梁は田子倉専用鉄道の鉄橋として再利用されることになりました。第八只見川橋梁は、戦後の電源開発の一環として行われた天竜川の佐久間ダム建設により不要となった鉄橋を、田子倉ダムの建設のための専用鉄道に再利用しており、電源開発と非常に関係が深い鉄橋といえます。

会津蒲生駅と只見駅の間にある叶津川橋梁は、叶津川と只見川の合流点から約二百メートル上流に建設された橋梁です。叶津川橋梁は、半径二五〇メートルの曲線に収めることと、下を道路が通っているので道路の上は約四メートルの高さが確保できることを条件に設計されました。



叶津川橋梁



第八只見川橋梁

(6) 只見から大白川

只見駅から大白川駅の間は、只見駅の

津坂下町と只見町にも蒸気機関車がありますが、これらは只見線を行っていた機関車ではありません。また、タブレット閉塞機は会津坂下駅、会津柳津駅、三島町観光交流館からんころん、道の駅奥会津かねやまで見られます。

只見線は大正時代の末から数十年をかけて段階的に建設されてきました。そのため、只見線の鉄道構造物には、大川橋梁の石張りコンクリート橋脚、第一只見川橋梁のスパンドレルブレーストバランストアーチ、単純トラスの滝谷川橋梁から第二只見川橋梁、第三只見川橋梁の連続トラスへの技術発展、第四平石川橋梁と大谷川橋梁の鋼製アーチセンタールを使用した施工と充腹式アーチから開腹式アーチへの移行、非電化鉄道トンネルとしては国内で二番目の長さとなる六十里越トンネルなど、建設された時期ごとの土木技術の発展や特徴が見られます。七折峠のトンネルや曲線半径二五〇メートルの魚野川橋梁と叶津川橋梁は地形に対応した設計の構造物であり、電源開発により飯田線から転用された第八只見川橋梁、貨車を転用した会津坂本駅の貨車駅舎などは、鉄道をめぐる社会的な情勢を示すものです。只見線は転車台が多く残っているのも特徴的で、これは只見線が段階的に建設されてきたため、各段階で終点となる駅が異なっていたことを示します。また、最近では新潟・福島豪雨からの復旧で新しく架け替えられた鉄橋もあり、幅広い時代の構造物が見られます。

これらの構造物は只見線の建設過程を実物として示すものであり、大正期から令和に至る様々な時代の構造物の実物を見ることが出来る点は、土木学会選奨土木遺産に認定された「只見線鉄道施設群」をはじめとする只見線の土木構造物の大きな価値であるといえます。



只見駅転車台

会津只見駅の運行が始まったことにより、平成十四年に再整備されました。

只見から大白川間の建設工事は昭和四十年から始まりました。福島県と新潟県の県境に当たる六十里越トンネルの工事は福島県側と新潟県側の両方から進められ、昭和四十五年九月二十八日にトンネルが貫通しました。六十里越トンネルの工事は四年七カ月の期間を要し、工事に従事した作業員は延べ約二十八万人に及びました。六十里越トンネルは六千三百五十九メートルで、非電化鉄道トンネルとしては国内で二番目に長いトンネルとなります。六十里越トンネルに取り付けられている扁額は、只見側は工事に当たった日本鉄道建設公団の篠原武司総裁、大白川側は小出只見線全通期成同盟会会長の田中角栄通産大臣が揮毫しています。

(7) 只見線の土木構造物の価値

これらの土木構造物の他、只見線を行っていた蒸気機関車は会津柳津駅前や喜多方の日中線跡、小出で見ることが出来ます（会

只見線への主な交通手段

東京及び首都圏から
会津若松まで

仙台から
会津若松まで

列車

仙台駅
東北新幹線
(約40分)
郡山駅
磐越西線(各停)
(約1時間20分)
会津若松駅

車

仙台宮城IC
東北自動車道
(約75分)
郡山JCT
磐越自動車道
(約45分)
会津若松IC
国道49号&118号
(約10分)
会津若松市

新潟から
会津若松まで

東京及び首都圏
小出まで

```

graph TD
    subgraph 列車
        A[東京駅] -- "上越新幹線  
(約1時間20分)" --> B[浦佐駅]
        B -- "上越線(各停)  
(約10分)" --> C[小出駅]
    end
    subgraph 車
        D[大泉JCT] -- "関越自動車道  
(約150分)" --> E[小出IC]
        E -- "国道291号ほか  
(約8分)" --> F[南魚沼市四日町]
    end
    C --- D
    E --- F
  
```

新潟から
小出まで

レンタル自転車

〔会津若松市〕	城下町レタサイル会津若松観光ビューロー	☎0242-27-4005
〔会津美里町〕	高田インフォメーションセンター 本郷インフォメーションセンター	☎0242-54-2333 ☎0242-56-4637
〔柳 津 町〕	道の駅会津柳津観光物産館清川柳 奥会津まちづくり支援機構 会津柳津観光案内所窓口 会津柳津駅舎観光案内窓口	☎0241-42-2324 ☎0241-42-2244 ☎0241-42-7333 ☎0241-42-2346
〔三 島 町〕	三島町観光協会	☎0241-48-5000
〔金 山 町〕	金山町観光物産協会	☎0241-42-7211
〔只見町〕	只見町インフォメーションセンター	☎0241-82-5250

只見線を10倍楽しむ本！

発行日 2026年3月20日

編集・発行

只見線交流事業実行委員会

お問い合わせ

福島県河沼郡柳津町寺家甲153

只見線交流事業実行委員会

事務局 塩田恵介

連絡先 090-3129-8102



東京～
会津若松までは
東北新幹線と
磐越西線で
約2時間40分

【会津若松市】	あいずタクシー	☎0120-692-468
	白虎タクシー	☎0242-28-1555
	広田タクシー	☎0242-75-2321
	葵タクシー	☎0242-37-1533
	若松タクシー(会津交通)	☎0242-26-6655
【会津美里町】	会津交通 高田営業所	☎0242-54-2266
	美里あいあいタクシー(乗合)	☎0242-55-0330
【会津坂下町】	河沼タクシー	☎0242-83-2531
	赤城タクシー	☎0242-83-3215
【柳 津 町】	柳津タクシー	☎0120-422-120
	柳津観光タクシー	☎0120-210-187

〔柳津町・三島町・金山町〕	奥会津交通	☎0241-42-2120
〔金山町〕	川口タクシー	☎0241-54-2255
	川口タクシー 横田営業所	☎0241-56-4029
	横田タクシー	☎0241-56-4032
〔昭和村〕	川口タクシー 昭和営業所	☎0241-57-2150
〔只見町〕	只見観光タクシー	☎0120-832-202
	朝日タクシー	☎0241-84-2235
〔南会津町・田島〕	祇園タクシー	☎0241-62-0074
	田島タクシー	☎0241-62-1130
	会津交通 田島営業所	☎0241-62-1244
〔南会津町・南郷〕	山口タクシー	☎0241-72-2354

【津 若 松 市】	駅レンタカー 会津若松駅営業所	☎0242-24-5171
	オリックレンタカー 会津若松駅前店	☎0242-25-0453
	日産レンタカー 会津若松店	☎0242-25-4123
	ニッポンレンタカー東北 会津若松営業所	☎0242-22-0919
	トヨタレンタリース新福島 会津若松駅前店	☎0242-32-0100
	トヨタレンタリース新福島 会津店	☎0242-28-0100
	トヨタレンタリース福島 会津若松店	☎0242-37-0100
【只 見 町】	エックスレンタリース北都(株) 会津営業所	☎0242-33-3711
	只見エスネットレンタカー	☎090-8928-8916
	【金 山 町】	金山町観光レンタカー

バス
 [会津若松市・会津美里町・会津坂下町・柳津町]
 会津バス ☎0242-22-5555
 [只見町]
 只見町商工会 ☎0241-83-1000
 [柳津町]
 町民バスふれあい号 ☎0241-43-2111
 [三島町]
 町営バス・デマンドバス ☎0241-52-3810

バス



只見線 アクセスガイド



アクセスマップ



**福島県の
ココです!**

會津若松駅 七日町駅 西若松駅 会津本郷駅 会津高田駅 根岸駅 新鶴駅 若宮駅 会津坂下駅 塔寺駅 会津坂本駅 会津柳津駅 郷戸駅 滝谷駅 会津松原駅 会津西方駅 会津室下駅 早戸駅 会津水沼駅 会津中川駅 会津三川駅 本名駅 会津越川駅 会津横田駅 会津大塩駅 会津塩沢駅 会津蒲生駅 只見駅 大広川駅 上条駅 越後須原駅 魚沼田中駅 越後大瀨駅 越後小瀨駅 小出駅

只見線ランド パスポート



TADAMI-LINE
PASSPORT

沿線飲食店観光スポット
約100店の紹介付